



北 異

Vol.36

令和2年8月17日

掛川西高等学校同窓会報

幾多もの困難を乗り越えて、掛西伝統の
応援練習をやり抜いた、応援団指導部



巻頭言

無趣味が趣味!?



同窓会総会 実行委員長

藤田直樹(高二十回卒)

皆さんは『趣味』をお持ちでしょうか。私自身、趣味を持っておりません。辞書によると趣味とは①味わい。おもしろみ。②物の美を理解し味わう能力。③楽しみとして愛好する事柄。となっています。元より味わい、おもしろみのある人間でもありませんし、この世に生を受けて以来、美を理解する能力など授かるはずもありません。ただ楽しみ愛好する何事かを身につける事は私でもできたのではないかと後悔しております。

就職試験や、社会人になってからの自己紹介の趣味の項目には、定型文の様に『読書・映画鑑賞・スポーツ観戦』の文字が記入されておりました。実際には、社会人となり仕事中心の生活サイクルまた結婚、子育ても加わり、趣味を見つける事を怠っております。(あえて見つける事ではないのかも知れませんが…)強いて言うならば、子供の成長と共に参加する学校行事、父兄との交流が楽しみであった気もします。ありがたい事に子育ての終わった現在でも親交を深めております。

還暦を迎えた今、同級生の動向も気に

なります。まだまだ仕事の第一線で活躍している者、楽器演奏の才能を活かして各種イベントに参加し盛り上げている者、スポーツ等の競技で技術向上を目指している者、中でも私が最も感謝しているのが野球部公式戦の様子をグループラインで知らせてくれる者がいる事です。私的にはこうした事を趣味と考え、うらやましく思います。

セカンドライフがスタートした今、日々生きがいを見つけ、興味を持つ事が長生きの秘訣と信じ、人生百年を目指し、精進していきたいと思えます。

※本年度の総会は新型コロナウイルスの感染拡大予防もあり、中止となりました。同窓生の皆様においては過去に経験のない事であり、生活等様々な影響が及んでいる事と思えます。また在校生においては、甲子園・インターハイ等スポーツ競技・文化イベント等、今しか経験できない事が中止となっています。つらく、悔しい事ではありますが、これを心の糧としてこれからの人生に活かしてくれる事を望みます。





新型コロナウイルス感染症禍 転じて福となせるか

掛川西高等学校同窓会長

石川 嘉延（高十一回卒）

本年四月一日、掛川西高等学校はその前身掛川尋常中学校が明治三十四年（一九〇一）に設立されて以来創立百二十周年を迎えました。

この記念すべき年に当たり、誠に残念なことながら、八月の同窓会総会は現下の新型コロナウイルス感染症拡大の収束時期が明確に見通せないことから、五月九日の同窓会役員会において「中止」の決定の止む無きに至りました。直ちにこの旨を同窓会及び学校のホームページに記載するとともに、静岡新聞及び中日新聞紙上でこの旨を取り上げられたことも加えて同窓生各位への周知とさせていただきます。

なお、今年の総会の幹事年の三十期、四十期及び五十期の役員の皆様には昨年夏の総会での引き継ぎ以降、鋭意準備作業に取り組んでいただいておりますのに、同窓会誌「冀北」の編集以外は無駄骨に終

わつてしまうことになり、誠に申し訳なく存じます。

一方、記念事業につきましては、同窓生、PTA、地元企業・団体などからの寄付金が二千四十万円と目標二千万円を上回ることでできました。この結果、記念事業として予定していた①図書館・特別教室のエアコン設置などの学校環境整備、②記念式典の開催、③記念誌の発行は、すべて実施する目途が立ちました。

ここに、改めてご協力くださった各位各方面に深甚なる謝意を申し上げます。

さて、今や全世界を巻き込んで猖獗を究めている新型コロナウイルス感染症はいつ収束に向かうのか全く見通せない状況にあります。しかし、一つだけ確かなことはこれから世界のあり方が大きく変わるといふことです。そして大国を中心に如何にこの大変動を自国或はその陣

営にとつて有利なものに構築するかについて激烈な競争が始まるということですが。

我が国では四月十六日に新型コロナウイルス対策特別措置法に基づく非常事態宣言が発せられ、国民生活全般に非常な制約が課せられてきました。幸い五月二十五日に非常事態宣言が解除され、徐々に日常生活や経済活動が再開されつつあります。しかし、専門家の見立てでは感染拡大の第二波、第三波の襲来は不可避ということから、今後とも警戒継続は必要で完全な平常時への復帰は当面望めない状態が続くことになりました。

政府からは三密を避けるなどの「新しい生活様式」の徹底などが呼び掛けられています。かねてより課題とされてきたテレワークの実施、イーコマースの拡大、イーラーニングの導入（母校では今回の休校時に県立高校のトップを切って実施）が行われ、その効果が実感されつつあります。

この結果、今後、DX（デジタルトランスフォーメーション）、即ちデジタル技術をあらゆる分野に取り入れて超効率的な社会経済構造を構築する動きが大きく進展することが確実になってきました。

このような傾向は国内だけに止まらず、今回の新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより浮き彫りになったグローバル化の問題点を踏まえて、世界全体、そしてそれぞれの国のあり方の大転換が始まるのが確実視されています。

この国際構造の転換がどのような方向へ進み、落ち着いていくのか、現段階ではその全貌は全く分かりません。しかし、確実なことは、これからの変動の中でなんとしても我が国の安全確保と繁栄を実現しなければならぬことです。その際、先進国としての自覚と誇りを持って国際社会の安寧実現に貢献しなければならぬということです。

このような我が国の使命を達成するためには、これを担う人材、特に青少年段階からその志を持つ人材を育成することが不可欠です。

この点で創立以来百二十年に亘り有為な人材を送り出してきた我が母校、掛川西高校の果たすべき役割は大きなものがあります。

母校がこの期待に応えていくためには同窓生の皆様を引き続き母校への関心を持ち、有形無形の応援をしてくださることが欠かせません。

どうか宜しく願います。次第であります。





掛川西高校生に育成したい 四つの資質・能力

「主体性・協働性・創造性・自己有用感」

校長 櫻井宏明

昨年度に引き続き、伝統ある掛川西高等学校の校長を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

石川同窓会長様をはじめ同窓生の皆様には、日ごろから本校に対して温かな眼差しで御支援御協力をいただいておりますことに、あらためて感謝申し上げます。

また、創立百二十周年記念事業につきましては、同窓生の皆様の御厚志を賜り、特別教室エアコン設置、中庭改修等の教育環境整備が可能となりました。誠にありがとうございました、心より御礼申し上げます。

現在、全世界で、新型コロナウイルスによる感染症が猛威をふるい、本校でも臨時休業が続いたり、臨時休業が明けても通常の教育活動が難しくなったりする状況にあります。本校は、本県立高校としては唯一、臨時休業において、すべての教科・科目の授業について本校職員によって時間割通りに授業動画を配信し、生徒自宅のパソコン等での学習を実現しました。これにより、臨時休業による授業の遅れを緩和するとともに、学力育成を推進しております。今も昔も、本校職員が生徒を大切に思う気持ちは変わりません。

さて、昨年度、本校では、職員が一年近くの間をかけて、「掛川西高校生に育成したい資質・能力」を策定しました。

掛川西高校生に育成したい資質・能力は、**主体性・協働性・創造性・自己有用感**の四つとしました。

つとしました。

本校には、正式な校訓が無く、教育目標「社会に貢献し、未来を切り拓く人間を育てる」、「スローガン」鍛えよう若き日を」がありますが、生徒に育成すべき力（資質・能力）については、明確ではありませんでした。

そこで、我々は、まず本校生徒に育成すべき力（資質・能力）を策定すべく、社会はどのように変化していくのか、その社会を生き抜いていくにはどのような資質・能力が必要か、また、学習指導要領ではどのような教育が求められているのか等について、研修することにしました。筑波大学藤田晃之教授、鳴門教育大学院久我直人教授、静岡県総合教育センター平川由紀子指導主事を講師にお迎えして、三回の職員研修を実施しました。また、生徒の現状を把握すべく、生徒アンケートを実施、分析しました。

並行して、本校職員がワークショップ型研修を行い、日ごろの教育活動とおして本校生徒について感じていることや不足していると思われる力について、意見を出し合いました。そして、それらを集約して方向付けをし、再び意見を出し合うということを繰り返して、少しずつ絞り込みをしていきました。これからの時代を担う掛川西高校生に相応しい資質・能力を策定することができたと思っておりますので、以下に紹介します。

第一の資質・能力「主体性」の意味することは、次の3つです。

- 1 解決困難なことにも怯まず、失敗をしてもそれを生かして、挑戦しようとする。
- 2 自分を律するとともに、周囲に流されることなく自ら考え、考えたことを表現したり行動に移したりできる。
- 3 物事を自分ごととして真剣に受け止めることができる。

第二の資質・能力「協働性」の意味すること

- 1 様々な考えの人と力を合わせ、集団のよりよい方向を目指そうとする。
- 2 人を大切に思う優しい心を持ち、人の役に立とうと自分の力を発揮する。
- 3 人とコミュニケーション（あいさつ等）を図り、人から学ぶことで考えを深めようとする。

第三「創造性」の意味すること

- 1 習得した知識や技能を活用して、課題を発見しその解決に向けて価値を創造しようとする。
- 2 視野を広げ、自己革新を続けようとする。
- 3 未来志向をもちながら、現在の凡事を徹底しようとする。

第四「自己有用感」の意味すること

- 1 自分には、自分の良さを認めてくれる人や場があると思う。
- 2 自分は、自分の力を発揮して人や社会の役に立つことができると思う。
- 3 自分は、向上し続ける人間だと思う。

なお、自己有用感とは、主体性・協働性・創造性の習得とともに育つていく性質のものといえます。また、自己有用感が高まれば、主体性・協働性・創造性を発揮する源動力になると考えます。このように、自己有用感とは、主体性・協働性・創造性という3つの核に

当たる大切な資質・能力と考えています。

社会は、情報化、グローバル化が進む中、国内外でさまざまな解決困難な課題を抱えています。コロナウイルスに代表される世界的感染症への対応もその一つでしょう。そのような今後の社会を生き抜いていく掛川西高校生は、「この四つの資質・能力を身に付け、その力を発揮して「社会に貢献し、未来を切り拓く人間」に育つて欲しいと願っています。そのためにも、この西高で「鍛えよう若き日」であります。勉学はもちろん、部活動や探究活動、学校行事への取組は、これら四つの資質・能力の伸長にかかわる大切な教育活動であると考えています。

本校の各学級には、教室前方及び後方に、「四つの資質・能力」とその意味についての掲示があります。また、今年度から生徒手帳の1ページにも示してあります。

今後の掛川西高校は、生徒・教師が共に、主体性・協働性・創造性・自己有用感を常に意識しながら、歩んでいく所存です。



これからも、同窓生の皆様の御期待に応えられる学校であるよう、進んでいきたいと考えておりますので、今後とも御支援のほどお願い申し上げます。





『かつとばせ！掛高！』 掛川西高応援考

副校長

伊藤裕啓（高三十三回卒）

今年の夏の甲子園は残念ながら中止と決まった。県大会は、現時点でははっきりしたことは決まっていない。行うだろうと思うが、行っても無観客試合であろう。当然、応援はない。野球部の三年生にとってはせっかくの晴れ舞台なのに応援がない中で試合をしなければならず、その悔しさたるや幾何か。その気持ちは応援団指導部の面々も同じであろう。

私は本校の高三十三回卒である。最近、物忘れがひどい私の頭だが、高校時代の応援練習の光景は様々な場面が鮮明に刻まれている。

我々の頃の応援練習がどれぐらい練習をしたのかは正確には覚えていないが、二十回とか三十回とか、かなり多かったような気がする。二年生になっても二、三回あった。暗幕を締め切つて、第一体育館や第二体育館で練習をしたが、あの緊張感はなかなかのものであった。

体育館に入ると駆け足で整列する。体育館いっぱいになり、その間を応援団の先輩たちが見回りする。声が小さかったりすると応援団の先輩が体育館の床をドーンと蹴り、「声出せ！」「しっかり気をつけをしていないと、ぐらぐらすんな！」という声がかかってくる。校歌や応援歌が歌えないと居残りだ。「前出ろー」と言われると、もう目の前は真っ暗である。

応援練習が終わると、ホッと一息。「ああ、

今日は前に出されなくてよかった。昨日は英語の予習をせずに第一応援歌を覚えた成果だ」と喜んでたが、こんな気持ちになつたのは私だけではないだろう。

現在の応援練習はどうか。

今年度はコロナの影響で回数はぐっと減つて七回である。うち一回は学年全体の練習だが、あとは密を避けるためにクラスを限定して中庭や体育館で二クラスずつ行う。昨年までは昼休みに教室でクラスごとに行うのが八回、放課後に体育館などで学年全体で行うのが七回の計十五回である。

体育館の暗幕を閉めることはしない。明るい中で行う。教室で行う時も体育館で行う時も一年生の教員が廊下や後ろで見てくれる。西高出身でない先生にはこの応援練習は異様な光景に見えるらしく、応援団指導部の言動に眉をしかめたり、「こんな時代錯誤なことを続けてはならない」という声も聞こえてきたりする。

OBの私からしたら、応援団指導部のやり方も随分優しくなっていると思う。「声出せ！」と言う声も、昔に比べたら何となく優しい気がするし、しつこくない。昔は横につかれたら最後、「声出せ！」攻撃が続き、しまいは「前出ろー！」となる。

一方、指導をされている側の一年生の様子も昔ほど必死でないような気もする。校歌や応援歌など、我々の頃よりしつかり覚えていないんじゃないかと思ったりする。「前出

ろー！」は、今はなくなったので、一年生の生徒も少し取り組みが甘くなっているのか。しかし、応援練習のストレスで休んでしまう生徒もいるほどなので、やはり生徒にはつらく苦しい応援練習なのだろう。

しかし、その応援練習を何とかくぐり抜けて、夏の大会になり、球場に応援に行くのと、そのつらさが一変する。あの厳しかった怖かった応援団指導部の先輩方が別の人に入れ替わったんじゃないかと思えるほどやさしく面白いのだ。「学生注目！」の応援団指導部のウィットに富んだ発言に笑い、守備の時には「座つてくさいね、水分補給をしてください」という配慮に癒される。選手がヒットを打つと、ファンファーレとともに歓喜し、得点すると、隣の者と肩を組んで「第二応援歌」を熱唱する。攻撃の時には掛高マーチとか大進撃とかに合わせて声をからして、「かつとばせ！掛高！」である。味方のファインプレーには手を叩いて喜び、最終回の守備には息を殺して投手の一球一球を見守る。主審のゲームセットのコールが聞こえると、スタンドのみんな喜びを分かち合う。選手が本塁上に整列し、一緒になつて青空に向かって声高らかに誇らしく校歌を歌うと、校歌を歌うのがこんなに嬉しいことなんだと思う。西高に入つてよかったとしみじみ思う。

夏の大会を見ていると、一年生はこんな感じである。四月五月の応援練習では青ざめた顔だった生徒が、一回戦、二回戦と勝つていくと、どんどん生き生きとした顔に変化していく。二年生、三年生になると、自分と机を並べている図体はわかりでかい男がグラウンドで大活躍しているからますます応援にも熱が入る。

負けたときは確かに悔しい。第一応援歌を歌って、そうか、これは負けた時の応援歌なんだと思ひ至り、涙を流しながら伝統の重みを知る。選手はグラウンドやダッグアウトで

涙を流し、応援団や応援団指導部はスタンドで涙を流す。本気の涙は尊い。野球部と応援団指導部と、応援団の涙の価値はどれも変わらない。なぜなら、みんな本気でやっているからだ。もちろん、こんな生徒ばかりではない。ある意味、背を向けている者もいるだろう。しかし、これまで九年間の西高の教員生活で、大勢の生徒がどのように応援に向き合っているのを見てきた。

夏の大会はカタルシスなのだ。つらく厳しい応援練習も夏の大会で浄化される。夏の大会を終えると、つらかった応援が大好きなものになる。応援だけではない。必死に戦つた野球部やそれを応援した応援団指導部や自分たち応援団が大好きになる。帰属意識が醸成され、学校としての一体感が生まれる。愛校心と言つてもよい。野球部や応援団指導部が普段から厳しい練習をしていることをみんな知っているから、尊敬の気持ちも生まれる。自分たちにも応援をやり切つたという満足感がある。自己肯定感、自己有用感につながる。

だから、卒業して何年経つても校歌はいつでも歌えるし、(三番、五番は怪しいが…)、同級会や同窓会をすれば必ず最後は校歌の大合唱になる。西高の卒業生であることが常に誇りに思い、仕事や毎日の生活をしていく。

こんな高校が他にあるだろうか。少なくともこれまで私が教師として勤めた学校にはこのような学校はなかった。おそらく近隣でもあまりないだろう。

西高にとつて野球応援は学校のアイデンティティと呼べるものだと思う。西高にとつて野球応援がなくなつたら西高ではなくなる。それほどのものだと思う。

今年はコロナの影響で練習もままならない状況だが、応援の伝統を絶やしてはならない。今はそんなことを強く思っている。

校歌

作詞 藤井金吾
作曲 塙 福寿

一、 岩根ごごしき天守台

その麓にぞわが校は

基定めて逆川の

栄え行くこそ楽しけれ

二、 雨降り嵐すさぶとも

指してや行かむ小笠山

希望の懸を射るまでは

めげず撓まず崩折れず

三、 心は空のまどかななる

月ももたげむ淡ヶ岳

盤石流す力ぶり

海もくぐらむ大井川

四、 鯨鯢くづれて潮湧く

遠つ淡海の灘しのぎ

越ゆればまたも富士のねの

高く笑まひて我を待つ

五、 はやし巻きて雲の峰

天がただなかくづすとも

流れは末を掛川の

水長へに波遠し

六、 やがてまことの功なし

誉れは栄ゆる百錦

飾りて花の色そへよ

大和島根の山桜

第一応援歌

一、 天守の森に草萌えて

志ある若人の

胸の血潮の燃ゆる時

咲くや万葉の花ごろも

二、 青苔敷ける逆川の

青葉端月に風吹けば

熱血ほほにみなぎりて

見よや勇士のまなざしを

三、 立てよ我等のますらをよ

ふるへ我等の同胞よ

七百望みは胸に燃え

衷心至誠の血はをどる

進め若人(第二応援歌)

一、 進め若人 桔梗が丘に

伝統の鐘 今ぞ高鳴る

青春の息吹は燃えて

大地をゆする

友情ここに結ばれて

戦意いよいよ新たなり

おお掛川 掛川西高

二、 進め若人 桔梗が丘に

団結の歌 今ぞ響ける

青春の血潮はたぎり

大地をゆする

健斗ここに果たされて

勝利いよいよ確かなり

おお掛川 掛川西高

三、 進め若人 桔梗が丘に

栄光の旗 今ぞひらめく

青春の希望はあふれ

大地をゆする

錬磨ここに報われて

名声いよいよ盛んなり

おお掛川 掛川西高



高校生活の思い出



浜松医科大学第三内科 病院准教授

Tomorriw will have its own anxieties.

小川法良(高二十回卒)

表題の言葉は、新約聖書にあるマタイの福音書の一節です。「明日のことは明日が思い煩うであろう」というように、訳されています。高校時代に覚えたこの一節が私の座右の銘となっていますが、そんなふうに見える日はいつ来るのだろうか。と還暦を迎えてもなお、家庭や仕事のこと、日々思い悩んでいます。高校時代は、僕にとつてあまり思い出したくない憂鬱な日々が多かったように思います。が、強く印象に残っていることがいくつかあります。



掛川西高入学直前の春の高校野球で全国ベスト8になり、中学時代軟式野球部に所属していた私にも野球部から声がかかりましたが、名門野球部で二年間やつていく自信がなく入部には至りませんでした。当時は、静岡高校、静岡商業、浜松商業などの古豪がひしめき合う時代であり、私の記憶では二年間で何回かこれらの強豪校と対戦し、三年生の夏に見事甲子園出場となりました。同じ西部地区にある浜松商業は手強いラ

イバル校で嫌な相手という意識が芽生えました。ところが大学入学直前、昭和五十四年の春の甲子園でその浜松商業が全国制覇を成し遂げ、大変感動しました。浜松商業優勝が、自分の大学合格を後押ししてくれたように感じた私は、一転浜商ファンになつてしまいました。掛川西高の校歌も好きですが、浜松商業の校歌も素敵でメロディーでなんとも言えぬ哀愁があり、大のお気に入りとなりました。浜松に定住するようになって以来、何度か浜松球場に足を運び、母校や浜松商業の試合を観ることが楽しみの一つとなっています。

高校生時代、暇なときはラジオやレコードで洋楽を聞き、テレビで洋画やアメリカの人気番組などをよく見ていました。昨今、音楽鑑賞は主に車のなかでという生活ですが、いまだに聴いている曲は七十年代や八十年代のロックやポップスが多く、高校生の時によく聞いた曲ばかりとなっています。テレビ番組ではLindsay Wagner扮する「バイオニック・ジェニー」に夢中になり、金髪の女性に憧れました。Franco Zeffirelli監督の「プラザーサン・シスタームーン」に感動し、清

貧の道を歩みたいと思うようになりました。高校生の時に経験したことの中に多くの魂が強く揺さぶられ、大きな影響を受けたということだと思っています。三十歳代前半にテキサス大学に二年間留学し、自己免疫疾患という難病の研究に従事しました。仕事のために英語をマスターしたいということもありましたが、高校生の時のアメリカに対する憧れの気持ちが大きな原動力となつたように思います。



テキサス大学サンアントニオ校、Norman Talal教授と(1993年)

子供の頃から科学の話が好きで、漠然と理系に進むつもりでいました。中学生の時に「生命の探究者」という医学者の伝記を読み、心の片隅に医師や医学者という職業もいいのではないかと考えていました。高校二年生になり、本気で医学部を受験しようと決めました。当時は医学部は最難関であり、自分の能力ではかなり難しいと思ひ込んでしまい、大きなストレスの中にいました。いま考えますと、この苦境を乗り越えたことが、私の中では大きな誇りと自信になっています。高校時代に悩み苦しみながら頑張ったお陰で、やりたかった難病の医療と研究に長年従事することができたと思いますので、高校時代の自分にはとても感謝しています。

振り返ると、自分の基礎の多くを培ったのは高校生の時期のように思います。ナイーブで未熟な時期に出会ったあらゆることが自我の形成に極めて重要な役割を担っていたということでしょう。多大なストレスにさらされた際、自分が何をなすべきかを見失うことがしばしばあります。そんな時に、母校や浜松商業の校歌を聞いたり、昔の音楽や映画に触れると、高校生の頃の記憶が鮮やかに蘇り、初心を思い起こさせてくれます。それにより、幾多の困難を乗り越え、今の自分があるような気がします。

現在も、診療、教育、研究とまだまだ忙しい日々が続いています。自己免疫疾患の診療と研究を続けてきたことが認められ、数年のうちに中部リウマチ学会と日本シェーグレン症候群学会という二つの学会を主催することとなり、浜松市内で開催の準備をしています。まだしばらくはゆづくりできそうにありませんが、いずれのんびり掛川西高の周辺を散歩しながら郷愁に浸ってみたいと思っています。



浜松医科大学免疫リウマチ内科スタッフと(左より2人目)





五感と共に蘇る

川山美樹(高四十回卒)

高校を卒業してもう三十年以上経つというのに、毎年、暖かくまぶしい光目に鮮やかな緑・少し湿気を帯びた匂い・鳥の囀りを感じる春になると、第二体育館西側の扉、剣道の防具の並んだ柵の横に汗をぬぐいながら風を受ける高校生にタイムスリップする自分がいます。

高校時代のことを、決して鮮明に覚えている訳ではないけれど、五感はずきりとその感覚を取り戻すのです。とりわけ特技があるわけでもなく、勉強も冴えない、存在感の薄い自分が唯一高校時代に頑張ったことと言え、部活でしょうか。中学の時から、「もし西高に入れたら、バドミントンをやりたい!!」と思っていたので、仮入部期間から迷わず第二体育館に通いました。

カーテンも扉も締め切った薄暗い古びた体育館で、北側の半分をバド部、南側半分を卓球部の先輩方が声を出しながら、真剣に練習していらつしやいました。そんな先輩方がとても大人びてカッコよく見え(実際にものすごく優しくて素敵でカッコよかったです)、自分も西高生になれたのだな…と沸々と喜びが湧いたものです。

何人ぐらゐ仮入部に一年生が来てい

たでしょうか。その子達と横一列になつて、ラケットの持ち方、シャトルの拾い方を教えてもらい練習しました。先輩方がいとも簡単にラケットでシャトルを掬い上げるので、すっかりその気になり挑戦するのですが、シャトルは逃げるばかり。何度も何度も練習しようやくできるようなると、家族にその技を得意げに披露して、先輩方の様子を夢中で話したものです。

本入部した七人の同級生と放課後は毎日汗しました。

ラケットシューズを履いてVジャージを注文して、見た目はすっかり憧れのバドミントン部員になりました。

この「Vジャージ」。いつ頃から愛用していたのでしょうか。伝統的な物らしく、すぐに毛玉のできるような藍色の生地に、白でVが施されたそれは、当時でもかなりレトロな風合いを醸し出すものでした。卒業と同時に処分してしまいましたが、取っておけば「懐かしの逸品」としてバド部OGで盛り上がれたのにな…と後悔しています。

そんな私達にとつてかけがえのない存在が、顧問の池谷先生と副顧問の西島先生です。当時、先生方にプライベートなお話を伺ったことはなかったのですが、

家族サーブスもしなければならぬでしょう中、また仕事でお疲れの中、毎日土日も含めて、丁寧にご指導頂きました。休憩時間や終了後は、部員からの勉強の質問にも快く答えて頂きました。夏の暑い日には、「これでアイス買ってこい。」と私達にはさまのアイスをご馳走してくださいました。因みに、「ほつたいもほじくるな!! (What time is it now!!)」というアイスにはまり、よく買っていました。同世代の方、覚えていらつしやいますか?

体育の島寄先生も、私達のお姉さんの存在で、よくご指導くださいました。気さくなお人柄で、みんなの相談にも沢山のつてくださいました。

すっかりご無沙汰しておりますが、先生方お元気で、活躍されていらつしやるのでしょうか。是非機会があればお目に掛かって当時の感謝の気持ちをお伝えしたいです。

さて、話を練習に戻します。こうして思い返してみると、一年生の頃の事が案外記憶に残っているものですね。西高には入学式を終えたら応援練習があるように、バド部には入部すると天守閣での走り込みが待っていました。色黒で「くろ」というあだ名を持つ私は、この走り込みで更に真っ黒になりました。中学の同級生に、「あれ?くろってバド部だよね。バドミントンって体育館じゃなかったけ?」と不思議な顔で尋ねられました。その度に、「お城で走っているからね。」と私は満面の笑みで白い歯を光らせたのです。

カーテンも窓も閉めて、細いラケットで小さなシャトルを追う地味なスポーツではありますが、結構いや相当ハードでした。持久力はあるものの、瞬発力の無い私にとっては、最初の基礎トレーニングのコートでのダッシュが苦手で苦手で、明らかに遅いとわかる自分の姿が、惨めだったのを覚えています。

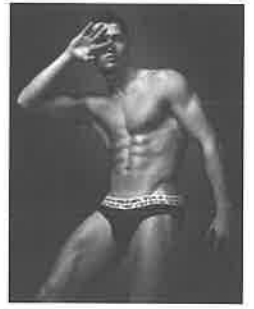
苦しい練習や試合で大切だと感じ、今も尚大切にしていることがあります。それは、「笑顔と声を出すこと」です。はきはきと笑顔で挨拶をすれば、お互いを敬い尊ぶことができ、苦しい時にも笑顔で大きな掛け声をかければ、我が身を奮い立たせ、仲間と響き、連帯感が増し、その状況を乗り切ることができま

す。これからも、この宝物を大切に、まっすぐ前を見据えて誠実に生きていきたいと思えます。

今年に残念ながら同窓会は中止になってしまいましたが、昨年夏の同窓会に出席させて頂き、同窓生というだけで近しく感じられ、学生の時には話したことも無い方々と、年齢を問わず楽しくお話しし刺激を頂きました。また、バド部の先輩方、同級生とも本当に久しぶりにお話しすることができ、学生時代に戻ったようでした。心からこの出会いと繋がりに感謝して止みません。ありがとうございます。

最後に、掛川西高等学校の益々の発展ご活躍をお祈り申し上げます。





現役にして伝説 生きながらにして神話

松永圭史(高五十回卒)

高校時代はまさに青春でした。おうじ、キンタ、まさと、パイマン、直子さん、わつしー、けんじ君、ムネ、よっちゃん、後藤などよき仲間恵まれ、思い出す記憶はここには書ききれないほどに多く、いや、振り返るとどれも書けない内容しか覚えておらず……まじめな記憶を絞り出しつつ、なるべくオブラートに包んで書いていこうと思います。

【入部】

私は中学時代にテニスをやっていたのですが、高校では別のスポーツをやるのかなと悩んでいました。そんな時、タイミングよく声を掛けてくれたのが近所に住む優しいM先輩でした。先輩のお誘いもあり、当時は見たことも聞いたこともなかった水球というスポーツをすることに決め、先輩に連れられてプールサイドに行つたのですが、そこには無表情のマッチョや二メートルある巨人、ケニアからの留学生など同じ人間とは思えない人々。その奥にはグラサンを掛けたK

先生がこちらを睨んでいるような状況でした。プールには海パンとボールが浮いており、高校生活に大きな不安を抱く私の横で優しいM先輩は不敵な笑みを浮かべていました。

【合宿】

不安なスタートでしたが何とか部活の練習にも慣れ、友人も増えて高校生活が楽しくなってきたころ、地獄の合宿が始まったのです。二泊三日で、練習は朝6時から夜22時まで泳ぎ込みや巻き足、スクーリング、パス、シュートなど水球の基礎練習。楽しみだつたご飯も楽しいのは1人前を食べ終わるまで。ご飯は大量に作られ、食べ切るまで終われず、エンドレスおかわり。肉体的にも精神的にも追い込まれ、入学数カ月で一皮も二皮もいろんな皮がズル剥けて急成長できました。といった感じで合宿を何とか乗り切ることができ、徐々に裸になることへの抵抗感が薄れていく自分に高揚感を覚えました。

【体育祭】

体育祭では部活対抗リレーがありました。ユニホームはみんな統一して海パン、体には先輩方が描かれた卑猥な図形や文字。バトンは亀のような縛り方で固定された人間バトン。だんだん周りから変態と言われるような集団になってきました。

【部活の成績】

と、そんなこんなでいろいろふざけつつも部活はまじめに取り組み、インハイ、国体と全国には行けました。インハイでは東海で二チームしか行けない中で、実力的には三位。上位二チームには一度も勝つことがなかったのですが、一致団結して戦うことができました。前夜に就寝しているB高に乗り込みウザ絡み。当日キレを失ったB高に容赦なく襲い掛かり、得意の泥試合で何とか引き分け。得失点差でみごと全国出場を果たし、申し訳ない気持ちなど一ミリもなく歡喜しました。国体ではインハイに行けなかったB高との合同チームで挑み、インハイに行けなかったB高の我々に対するうつつぶんを晴らすような活躍によつて全国六位と過去一の成績を収めました。会場で無料配布していた国体選手限定のジュースを箱単位で頂戴し、枯渇させることで他県へプレッシャーをかけたことが効いたのかもしれない。ただ、ここまでの道のりが厳しかったです。大会に臨むにあたってフィジカルを強化するために様々な強豪校に練習に赴きました。移動時のバスは静かで山道にも関わらずキンコンキンコンといった謎の音がずっと鳴り響き、緊張感に溢れていました。また、毎夜二時前後



には少し赤みのかかったN先生が海パン姿で他県の知らない先生と一緒に現れ、全員を起こして戦略会議。

我々選手が腹を空かせているかもしれないとお心遣いをして頂き、食パンを何枚もご馳走になりました。ドリンクはありませんでした。また、なぜこんな時間に起きているのか、明日は試合だぞ、と熱いご指導ご鞭撻を賜りました。遠征での宿泊先はいつも民家のような宿で全員雑魚寝。N先生はホテルの宿泊を拒否されるようで、出禁という言葉をごくで学ぶとともにメンタルが強化されました。

【思念工夫】

ある日、恩師K先生にある言葉をいただきました。苦しいときはいつでもこの言葉が自分の支えとなっていています。突然テキストが変わりますが、風化してしまわないようにここに記します。

『成功は苦境の日に始まり、失敗は得意の時に原因がある。高い目標を完遂する過程を通じて人間は成長する。不足を言うな、足りないのは己の知恵と行動力だ。時間を蓄積することはできない。一日一時間一分をどのように活かすがが人生勝敗の分かれ道だ。厳しさをなくして執念なし、執念なくして行動なし、行動なくして成果なし。研究心、行

動力、継続力無き者に成功なし。根性無き者は去れ。』

【修学旅行】

修学旅行は東北方面に行きました。個人的な目的は日本で三番目くらいに深いといわれるT和田湖で泳ぐこと。遊泳場所がわからず、近所の売店のおばちゃんに聞いたところ、泳いでいる人を見たことないけどその辺でいいでしょとのこと。さつそく入って飛びつき練習。わちゃわちゃと一人泳いでいたところ、T先生が「ちよつと！」と言いながらこちらに向かつて猛ダッシュ。ゼーゼー息を切らしながら着いて一言、「こつち向いてピースして」とカメラでパシャリ。満足そうでした。夜は皆で語りあい、H君は天井まで飛ぶと豪語していたのが今でも思い出されます。とにかく朝食に出た牧場の牛乳がおいしかったのですが、夜の話の思い出すとかなか喉を通りませんでした。

【学園祭】

クラスメート全員で燃えたのが、学園祭です。学園祭ではクイズを出題し、それに答えて得点を競うといった、ありきたりなゲームをやることにしました。当日、観客の目にはどう映ったのかわかりませんが、自分たちは大満足。両親も見に来ていたようですが、この出し物に対するコメント

は一切ありませんでした。当時の問題動画を振り返ると、トイレでわずかに聞こえるコスレ音…、掛川城の城壁を…、陸上部からあれを拝借して…、卓球部の球を勝手に使って…、ステラのエレベーターで…、駅のホームで…、書けるものがなくまさに問題動画ですが、いい思い出です。ちなみに優勝はよつちゃん。男の象徴トロフィーを高々に掲げる写真は今でも卒アルで輝いています。忘れていましたが卒アルの編集はわつしーと私でした。

【時は流れ】

あれから二十年以上時が経ちました。見た目は多少変わり、住まいも国内外バラバラになってしまいましたが、今でも当時の繋がりは変わらず、思い出を語り合っています。

キンタ、直子さん、わつしー、けんじ君、よつちゃん、後藤、本誌作成に協力ありがとう！そして本誌のほぼすべてを書いてくれたM屋君。守Y君のおかげで私は写真を加えるだけで楽をさせて頂きました。家に持ってきてくれたセロリ、美味しかったよ。ありがとう。

以上。この話はフィクションです。



会員寄稿



町の書店と西高生

富田律男（高二十九回卒）

『冀北』の編集担当者から突然原稿依頼が来た。「なぜ僕に」と思ったが、心当たりもあつた。昨年度、掛西同窓会総会実行委員長だった今駒君を中心にして高二十九回卒のライングループが立ち上がっていた。総会を迎えるまでは総会の準備や連絡、あるいは高校時代の思い出終わつてからは生活を豊かにしてくれる情報等が投稿され、我々同級生の人生を充実させてくれる大切な場となつてはいるのだが、その投稿に僕が人一倍熱心だったからだ。

冀北編集委員のTからは、「あのラインに載せるような小ネタでいい」ということだった。僕が投稿していたのは「水窪から掛西には通えないので掛西近くに下宿し興味深い生活を送っていた日君」、「高校三年間のテストで一度だけ二位で後は全て二位だったK君」だった。度々「一位になったK君の秘密」、「掛西の受験体制にうんざりし、授業ボイコット等反抗的な行動が続けたがゆえ、夏の勉強合宿参加を希望するも唯一人拒否されたT君」等の個人的な内容だった。

本当に冀北の内容としてこうしたことではないのだろうかと考えていたそんな時だった。掛西の近くに「高久書店」という小さな本屋が開店したのを知つたのは、早速訪れてみた。この時勢に町の本屋を開くという高木店主

の覚悟と意思が詰まつた書店だった。高木さんと話をした。一階には西高生も使える小さなリーススペースまであつた。高久書店が西高生への大きな贈りものと思えた。そしてその時冀北に書く内容が決まつた。題は『町の書店と西高生』。最初に、自分が高校時代の町の書店のこと。そして、大きな駐車場を持つ郊外型の大型書店の進出と消える町の本屋のこと。最後に、駅前前のびさい堂が一昨年末に店を閉めた後、西高生の通学路からは本屋はなくなったけれどもそこに登場した高久書店のこと。僕だから書ける内容もあつたのでそれに決めた。

高校時代の町の書店 岡田書店(掛川駅前店) 掛川駅北口、バスのロータリーの西奥にあつた。バス待ちの時間利用。M君はここで、大学紛争が高校にも波及し掛西もその舞台となつたこと等が書かれた「高校生はかく戦えり」という本を背伸びして買い、英語の授業中「紛争でロックアウトされた掛西の門扉をよじ登つて校内に入ろうとする西高生の写真」を見ている所を赤堀真男先生に見つかり、「一年でこんなものに興味を持たんでいい。」と注意された。

岡田書店(連雀店) 今も当時の書店の建物と看板は連雀交差点すぐ近くに残つている。旧岡田書店の前に

立ち止まると、本を立ち読みする高校生の自分を思い出す。その姿は、大学時代の本に閃く。三つの楽しみ(バイト代を持って古本屋に行きお気に入りの本を探し出す楽しみ、買った本を読む楽しみ、下宿の書棚に所有する楽しみ)を味わう自分の姿になつていったと思われ。もし、高校時代、駅から西高までの通学路に本屋がなかったとしたら、高校生活は少しさびしいものとなつていただろう。

広い駐車場を備えた郊外型大型書店の進出 宮脇書店は香川県に本拠を置き、店舗数では日本最大の書店チェーン店。宮脇書店掛川店は、実は妻の実家の木工所があつた所に呼んできた書店である。その後、西郷にさらに大きな戸田書店が進出。これらの郊外型大型書店とコンビニの雑誌コーナー、そしてネット通販の普及と活字文化の衰退に押されて町の書店岡田書店は店を閉め、最後に残つていた駅前通りのびさい堂も一昨年末に店を閉じた。家が近かつたのでびさい堂には時々寄らせてもらい話もしていた。「本の配達売り上げがなければ店を開けていても赤字が増えるだけ」という話も出ていた。居酒屋に変わった元びさい堂さんの前を通るたびにさびしく思う。

こうして掛西と掛川駅間の通学路には書店がなくなつた。西高生にとつての大事な文化の灯が一つなくなつた。活字を読むのは教科書と参考書、あとはスマホとタブレットでのネット生活が中心になつていよう。今の高校生だからこそ書店文化が大事になるのではないかと思う。

高久書店 登場

こんな時代の流れの中であえて高久書店を開いた高木久道さんのことは、実は前から知つていた。テレビに何度も取り上げられていたし、昨年五月にはSBSスペシャル『本の伝道師』というすばらしいドキュメンタリー番組も放送されたのです。高木さんは戸田書店掛川西郷店の店長をやりながら、絵本や単行本をライトバンに積み込み、県内の書店のない地区を回る移動書店もやっていた。子ども達に本を紹介したり、時には読み聞かせをしたりし、大人にはニーズを聞いておすすめの本を紹介したりする時の高木さんの幸せそうな優しい表情。「本屋は死なない。本のすばらしさを伝えたい。本と活字文化を守りたい。やれることなら何でもやる。」

静岡県の書店員や図書館司書が七年ほど前に立ち上げた「静岡書店大賞」の取り組みで中心的な役割を果たしていた彼は、戸田書店掛川西郷店を辞め、高久書店を他ならぬ西高生の通学路に開いてくれた。今年二月にオープンするとすぐに寄つてくれた西高生もいたよすがだが、残念ながら今はコロナウイルスがその流れを止めてしまつている。

今後、高木さんと高久書店、そしてテレビドキュメンタリー『本の伝道師』等を教材として活用し、書店文化や活字文化の灯をともし続けていくことを西高生や先生方には期待したい。





掛川西高野球部父母会

梶 史彦 (高二十九回卒)

平成二十六年夏。森脇・坂元バッテリーのチームは娘の学年でもあり文系の彼女は野球部の友人が大勢いた。彼らが最上級生となった時、下級生への過度なシゴキは廃止したそうでチームワークも良かったのだろう。本当に悔やまれる準優勝だった。

中学三年生の息子は中体連県大会出場を逃し、高校で野球を続けるか悩んでいた。その後、西高が久々に決勝進出を果たし甲子園は近いと嬉しい予感を覚えた頃、西高野球部でバッテリーとして勝負すると頼もしく宣言した。とは言え、菊川西中野球部では左投げ左打ちの右翼手で打順は下位が多く、私は正直西高ではレギュラーは厳しいなと手放しでは喜ばなかった。

翌春無事入学が決まり晴れて西高野球部の一員となった練習初日。息子からラインがあり投手組に選ばれたとの内容に家族全員で本当に卒倒してしまった。息子は投手経験がないのである。それから数日後、練習が終わった息子はネット裏の好爺爺から声を掛けられたそう、聞けば西高野球部の大先輩でも甲子園に出場した私の叔父と同級生との事であった。菊川の写真屋の左腕はオールドファンの方々にもピンとくるら

しい。こうして我が家の父母会ライフがスタートしていった。

その当時各学年に五人程投手を育成しており全ての学年に左腕は必ずいた。皆、小中学校では投手であたり前ではあるが全員エース。特に三年生は一四〇キロ右腕が三人おり、「今年こそは静高倒して甲子園」が、合い言葉で父母会もかなり熱かった。

ところが夏は甘くなく常葉菊川に打ち込まれまさかの三回戦敗退。新チームスタート後B戦で好調な一年生を片桐コーチが進言したのであろうか木村監督は積極的にA戦で登用した。結局秋の大会では野手の半分は一年生で臨む体制となった。西部地区大会準決勝で磐田東にあれよあれよの五回コールド負け。しかしこの敗戦は不思議と引きずる事なく二位決定戦の常葉菊川戦では夏のうづぶんを晴らす七回コールド勝ちを収めこの後の快進撃に繋がる。迎えた県大会。初戦から嫌な相手の常葉橘だった。大会。初戦から嫌な相手の常葉橘だったがヒヤヒヤの勝利。この日他球場へ次の対戦相手と予想される静岡の偵察隊に息子は参加しており、静高エースの変化球が若干高めに甘くなる傾向を見つけていた。偵察隊とは試合に出ない投手野手四〜五名からなり学力も貴重な選考

基準となるらしい。その甘い球の情報。本場に基になったかはわからないが、対戦当日は初回から打ちまくる静高エースを二回KOし見事に勝利。これで完全に勢いに乗り藤枝明誠、日大三島を破り久々に県大会制覇したのであった。

残念ながら東海大会では三重高校に敗れ選抜出場はならなかったが選手も父母会も甲子園を本気で意識してきた様に思う。

春になり投手陣の調子が上がらず夏のシード権は確保したもののピリツとしない練習試合が続いていた。二年生になった息子は六月に入りB戦の智辯戦で好投しコーチから夏の背番号はないが今後は全てA戦で使うと告げられた。そして本場に強豪木更津総合・平塚学園戦の神奈川遠征メンバーに選ばれた。二年生の父兄で観戦に行つたのは私一人だけだったが、スマップ中居君の母校平塚学園の豪華な施設に圧倒された。一本目は木更津対平塚で二本目が西高対木更津であった。ここで木更津は平塚戦から有り得ない事にメンバーを落としてきた。序盤西高が先制点を奪ったところであたふたとレギュラーに戻し、結果逆転負けを喰らったが翌年からこの遠征は組まれなくなった。OB監督のプライドを感じ私は心の中で拍手した。

約束通り背番号はなかった夏の大会は浜松学院に引き分け再試合で敗れ二回戦敗退。その一週間後には新チームで長野遠征に出掛けた。二日目の佐久長聖戦では意気込みすぎストライクが入ら

ない息子はワンアウトも取れずに降板。しかしこの試合で驚いたのが、代打で起用された相手選手が打席で迷いを見せると、相手コーチがお前の代わりはいくらでもいるぞと大声で叱責した。一学年四十人からの大所帯。毎日毎日競争であろう。公立校にはない選手層の厚さを感じ、強豪校たる所以を垣間見た気がした。

息子が最上級生となつてから夏の大会まではアツという間でほとんどの行事や試合に参加し少しでも長い高校野球生活を願っていた。嬉しい事に夏の大会前のスポニチ予想では掛西、静高、藤枝明誠を優勝候補として取り上げてくれた。我々父母会の中でも鼻臍目ではなく充分ありうるよと感じていた。ところがところがまさかの三回戦敗退。あまりにもあつけない幕切れにある父兄は一週間食事が喉を通らなかつたという。私も何ヶ月の間は無性に西高野球部父母会を終える寂しさに襲われた。

現在こうして当時を振り返ってみると最後はとても残念な結果ではあったが、そこに至る過程にはなかなか経験できないであろう大きな喜びや充実感を得られていた事に気がついた。月並みではあるが西高野球部に感謝。今でもお付き合いが続く父母会の皆様にも感謝。そして最高の親孝行をしてくれた息子に感謝。最後に他の父兄の総意でもあるのだが監督・コーチに一番の感謝を申し上げて終わりたい。





らしさが良しとされる時

栗本悠紀（高四十九回卒）

私の旧姓は五十嵐と申します。一九九四年、私は菊川東中学校から掛川西高校へ入学しました。部活動は女子テニス部。勉強よりも部活動に熱中した高校時代でした。

最も印象に残っているのは、現代文の小林武史先生による初授業です。高校三年の時だったと思います。一人ずつ順に前に出て、フリートークをし、全員が終わったタイミングで授業内容に入るというものでした。時間は無制限。ただし、クラスの皆が退屈してきたら先生からストップがかかります。

男子が懸命に頑張るなか、私も十分：クラス一の男子並みの大健闘でした。「きみは、『赤毛のアン』の本を読んだことがあるかね？」と小林先生。読んだことのない私に、「読んでみなさい。きみのような女の子だよ。」

穏やかな口調でおっしゃった先生。私は目の前に大きな虹がかかったような、何とも言えない清々しい気持ちになりました。

物事の捉え方が人と違うことの多かった私は、『宇宙人』と言われることもありましたが、先生の言葉によって、私

しさが良しとなり、自信を持つて生きること、自分の持ち味を活かすことの大切さを教わりました。小林先生、本当にありがとうございました！

あれから二十数年。現在、私は四児の母となりました。末の娘はまだ生まれたばかりです。二〇二〇年、新型コロナウイルスが世界中で猛威をふるうなかでの出産。生涯忘れられないと思えます。一人でも感染者が出るとクリニックは閉鎖。そのような状況で、命を生かすために自らの命を懸け、助産師も医師も関わっていただきました。

コロナ禍でこれまでできていたことができなくなりました。当たり前が当たり前ではなくなり、人々の生活は一変しました。

我が家ももちろん例外ではありません。小学一年の長男はダウン症です。なかでも肺が弱く、喘息が出ると重症化しやすい長男。就学前には何度もICUで命の危機がありました。これまで以上に感染に注意して過ごす毎日でした。年中の次男は正義感あふれるウルトラマン。三月からの休校と休園で子ども達を取りまく環境も大きく変

わりましたが、出産前にそれぞれと向き合い、深く知る貴重な時間となりました。未就園の長女は、いるだけで場を明るくしてくれます。一緒に過ごす時間が増え、言語も心も急成長したように思います。

子ども達と過ごす日々は、私にとって発見の連続です。大変なこともありましたが、それ以上に喜びがあります。

第一子の長男がダウン症であると医師に告知されたのは、生後一ヶ月を過ぎた頃でした。ダウン症(ダウン症候群、二十一トリソミーともいわれます)は、二十一番目の染色体が一本多いことで、成長が妨げられたり、合併症や知的障がいが出ることもある染色体異常です。

告知の瞬間、私の描いていた未来は一気に崩れ去りました。検査結果が出るまで考えないようにしてきた未来への不安が、ぐるぐると回り始めました。

ところが、それは長くは続きませんでした。崩れ去ったのはあくまで私のプランであり、彼の未来がなくなっただけではないことに気づいたからです。

復帰するはずだった塾講師の仕事も辞めたのは、彼のせいではなく私の意思です。彼は、何かのタイミングが一つでもずれていたら、生きて産まれることができませんでした。

世の多くの人と異なる特性、特徴があると、生きづらさを感じることがあります。また、本人はそう思わなくても、周囲が気にすることで区別され、差別や

いじめにつながることもあります。ふと、思うんです。病気も障がいも、無いなら無い方がいい。ただ、人間的な価値観ではなく、もっと大きな視点で捉えた時、マイナスに思えるものに価値を見出すことができるのではないかと。

長男についてもそうです。彼が「良し！」とされてこの世界にやって来たのなら、私は彼の持ち味を存分に活かすことに全力を注ぐ。存在そのものを認め、可能性を信じる。挑戦を応援する。何よりも大切なことは、心から愛すること。これらは他の子ども達にも心掛けていますが、それぞれに必要な支援はありません。長男に特別手がかかると感じてはいません。

冒頭の小林先生から教わったことは、時が経った今でも私とともにあります。世界が揺り動かされるようなことがますます起こりうる今、自分の持ち味を活かし、使命を自覚し行動できることは、とても大きな強みになると私は信じています。

ピンチはチャンス！主婦・ブロガー(福ふくといる)・四児の母・バンドボーカル・作詞作曲家・元能力開発塾講師・様々な顔を持つ私ですが、その土台は掛川西高校です。先生方、仲間達、歴史をつくられた素晴らしい先輩方に心から感謝いたします。皆様のさらなるご活躍をお祈りいたします。



会員からのメッセージ

「ありがとう」二俣線

加茂登志子(高二十九回卒)

自転車に乗って家を出ると原谷駅までほぼ一直線だが、まだ舗装されていない石ころの転がる道を走るのはかなり難儀だった。当時の二俣線は出勤・通学タイムで増便されても二十分に一本である。つまり、七時三十四分発に間に合わないことはそのまま遅刻を意味していた。毎朝のギリギリの攻防は概ね私が勝利していたのだが、ある日とうとうホームに着いたと同時に無常にも電車は掛川駅に向かって動き出してしまったのである。

パニックに陥り、かつ体力に溢れた十代の私は「待ってー!!」と叫びながら動き始めた緑とオレンジの二両編成車両の脇を疾走した。今考えても他に選択肢はないが、決して効果的な解決方法とも思えないし、何よりみつともない。多くの掛西の制服が気の毒そうに私を見つめていたような気もする。すると、本当にあり得ないことだが、二俣線は停止してくれたのである。車両の前半分くらいは駅からすでに出てしまっていたと思う。誰かが開けてくれたドアから駆け込んで上がった息を整えていると、再び車両は掛川駅に向かって進行を始めた。優しくも停車して下さった運転手さん、そして多分運転手さんに連絡してくれた駅長さん、本当にありがとうございました。四十五年の時を経てこの場を借りてやっとお礼が言えて嬉しいのです。東京に行つてからの飲み会で、この話で何度掛川の人情を自慢したことだろう。

「変わりながら繋がっていくもの」

小崎昭子(高三十九回卒)

昨年、娘の入学式が行われ、何十年かぶりに母校の学校行事に参加させていただきました。もちろん主役は娘ですが、かつてそこに座っていた自分を思い出し、ドキドキするのを感じました。

生徒達をよく見ると、制服はあまり変わっていませんが、いろんな色や形のリュックを持っています。私達の黒い手提げカバンよりはるかに機能的でお洒落です。上履きのスリッパも少し丈夫で形も良くなっています。式が進むと校歌が流れ始めました。素晴らしい吹奏楽部の伴奏です。そのメロディーは何も変わっていません。娘達新入生は、まだほとんど校歌を歌えませんが、今も引き継がれている応援練習を経験した後には、記憶の奥底にまで刻まれ、しっかりと歌えることとなるでしょう。

教室に移動すると、数年前に工事を終えた教室は、ほのかに木の香りがし、たくさんの木材が使われていました。大きなエアコンも完備です。随分と居心地が良くなったと思いましたが、座っている娘たち新入生は、少し緊張しながらもこれから始まる新しい生活をまっすぐに見つめていて、あの頃の自分達とあまり変わっていないように見えました。

女子生徒の数も増え、男子生徒は家庭科を履修し、学習方法も目指す生徒たちの姿も社会の価値観も変化し続けています。その中で娘たちは元気に学校生活を送っています。あのスローガンのもと…

「鍛えよう 若き日を」

「山村の生活から」

遠藤 基(高四十九回卒)

「すれ違う車に手を挙げること」そんなことを現場の班長から言われたのは二十四歳の時でした。なんとも面倒なことを、と思っていました。一ヶ月程で慣れ、それが普通になっていました。村の人は僕の顔を覚え、村外の人も嫌な気はしない。これが村に馴染む近道だと言う。

その後、この村を離れ、やりたかった仕事や所謂安定した職に就いたが三十二歳にして再びここに拠点を移した。結局、自分には他の環境が合わず、残ったのがこの地域での林業だった。

ここ井川は静岡市の最北部、近頃はリニア工事で話題に上ることも多い、湖と山に囲まれた地域です。コンビニまで一時間、小中学生は計五人、高齢者多数の限界集落である。

そんな環境に九年、漸く腰を据えて生活できるようになった。頻繁な葬儀や村の行事など面倒も多いと感じていたが、それらも今では自身にうまく取り込めるようになった。子供に関しては、村の人達からたつぷり愛情をもらい、また、圧倒的なスケールの自然が優しく、時に厳しく見守ってくれる。子にはそんな環境から様々な感情を養い、工夫しながら生きる力を身につけてもらいたいと願う。山村ならではの暮らしを存分に味わえることに感謝したい。

「あはれ(古語)が脳裏をよぎる。そんな時間が流れる素敵な所である。



名物先生



渥美留夫先生

金田行雄先生

渡部茂夫先生

「恩師との思い出」

白井 匠（高四十回卒）

を目のあたりにし、身の引き締まる思いがしたのを憶えています。

入部したての一年生は、基礎体力がまだ無いので、野球をやる以前の体力づくりからでした。当時は練習中に水を飲んではいけない時代でした。汗が乾いて、肌は塩が残り、ザラザラになっていました。今では推奨しないやり方ですが、当時はそのような練習で気持ちごとくも強くなっていたように思います。全力疾走し、声をからして練習をした日々でした。

その厳しい練習を、さらに引き締めてくださったのが、監督の渡部茂夫先生でした。技術面、体力面だけでなく、精神的にも大変鍛えていただきました。

その後、私たちが三年生の時には監督が金田行雄先生になりました。相手投手、打者のデータ分析など「常に考える野球」を教えていただきました。また延々と続くノックも忘れられません。

そしてその野球部を表からだけではなく、裏からも支えていただいたのが部長の渥美留夫先生です。練習試合の調整や、部の経理など、監督や選手が部活動に集中できるようにしていただきました。

ました。

時には選手にノックをしてくださることもありました。さほど大きなお身体ではない先生ですが、全身の力を使い、私たちにフルスイングでボールを打ってくださいました。長時間続けるのノックは、とても大変なことだったと思います。

二年生の夏、優勝候補でもあった一ツ上の代の先輩方が県大会で惜しくも敗れ、私たちの代の最後の二年間になりました。

当時私は捕手をしていたのですが、「最上級生になればレギュラーになり活躍できる。」と根拠のない自信を持っていました。しかし、実際は違いました。ライバルの方が、はるかに実力が上だったのです。思っていたのとは違う現実には、私は落ち込み、迷っていました。そんな私を見た渥美先生は、「やーい、白井元氣か？」と声を掛けてくださり、今のままではダメだということ、どうこれから練習に取り組むべきかなど、笑顔の中にも真剣に向き合ってお話をしてくださいました。それから私は、捕球動作や、投球動作など、基本の一つ一つの練習を見直していききました。冬を越し春になったころには、常に試合に出ることが叶い、徐々に結果を残せるようになりました。

先生には小さな努力を積み重ねることの大切さを教えていただきました。また私だけではなく、選手一人一人を気にかけてくださいました。そのご指導のおかげで、最後の夏の大会では、今までの練習の成果をすべて出し切ることができました。チームとしては、残念ながら県大会で敗退してしまいましたが、野球を通してとても大切なことを学びました。

また渥美先生には、グラウンドだけでなく教室内でも、色々教えていただきました。私の二年生と三年生の時のクラ

ス担任であり、また地理の先生でもありました。私にとって授業中は野球をしてる時より大変でした。空腹と睡魔との戦いです。そんな中で渥美先生は、生徒が世界の地理に興味を持てるように、世界中の出来事やスポーツ、海外アーティストの話まで、雑談を交えて楽しく授業を行ってくださいました。ある授業では、「オランダの天然ガスの産地は？」という問題の答えのヒントが「将来俺みたいな不労人間になるな。」答えは「ブローニンゲン」というように、思わず苦笑するような駄洒落も多くありました。が、楽しい授業の一つでした。

また三年生のクラス担任の時は、大学への進路のことだけではなく、その先の就職や人生についても、親身になりアドバイスをくださいました。

そのような先生ですので、皆に慕われ、卒業後に同級生で草野球チームを作った際には、チーム名に先生の愛称から一文字いただいたほどです。

私が社会人となった後も、会う度に「やーい白井、元氣にやっているか？仕事頑張っているか？結婚したか？」など、気にしてくださいました。その後、結婚や子供の誕生の報告をした際は、大変喜んでいただきました。

後に、後輩が予選を勝ち抜き、渥美先生を甲子園に連れて行ってくれました。テレビ放送の試合中継で、渥美先生がとても嬉しそうにゲスト解説をされていたのを思い出します。

渥美先生は十四年間という長きにわたり掛川西高野球部に在籍され、多くの部員を育ててこられました。今でも掛川西高野球部の試合にはよく球場まで応援に来られています。また球場のスタンドで、お元氣な先生にお会いできることを楽しみにしています。



西郷 功先生

「体育館に

湯飲みが飛ぶ」

守屋主税（高五十回卒）

「集合」キャプテンの自分は、部員に声を掛け、先生の前に集合させる。集合するのが早いか、湯飲みが顔面に直撃するのが早いか。「相手チームの間を走って集合するとは何事だ。相手の邪魔にならないようにチームを指揮するのがお前の役割だろ。」これは、掛川西高校男子バレー部の練習の一場面である。今でも鮮明に覚えている。

私が西郷先生に初めてお会いしたのは、平成七年四月。西郷先生はそれまで、隣の掛川東高校で女子バレー部の指導をされていた。掛川西高校は先生にとつても母校である。教職人生の有終の美を飾るために残りの三年間母校に赴任したのかも知れない。偶然にもその年、私も掛川西高校に入学した。

私は、磐田郡水窪町（現在は浜松市天竜区水窪町）の出身である。同級生は五十人足らず。小さな町の中学校から、一人下宿をして掛川西高校の門を叩いた。当時の野球部も大変強く、坊主頭の私は、野球部の新入生と勘違いされ、野球部の先輩によく絡まれた。真っ黒で体格のいい野球部の先輩に囲まれた時、入学した高校を間違えたのではないかとさえ思ったこともある。知り合いは一人もいない環境の中で、手当たり次第に背の高い同級生に声を掛け、バレー部の部員

集めをした。四月、何人かと共に放課後の体育館を覗いた。その時、熱心に指導をされていたのが西郷先生である。

入部した後の練習は本当にきつかった。体育館での練習はもちろん、体育館が使えない日の、掛川城の坂道ダッシュもまたきつい。夏の練習。合宿所での練習。練習着が何枚も汗でビショビショ。ビリビリに破れた日もあった。練習の合間、体育館南側の部室で、バレー部の仲間との雑談、お弁当の時間もまた良き思い出である。高校二年の夏。インターハイ予選で先輩の引退後、ミーティングが行われた。そこで、西郷先生から驚きの発表があった。「新チームのキャプテンは、守屋、お前がやれ。」

背も高くない。身体能力も高いわけではない。中学時代の経験も浅い。そんな中で、キャプテンを務めることなど無理だと思った。直談判するも、「お前がやれ」の一点張り。キャプテンを引き受けた後の活動は特に精神的に苦しかった。プレーの面で先生に叱られても自分はコートには立っていない。いつもベンチで声を出すだけだ。先生が不在時は、自分が全て指示を出す。レギュラーでない自分に偉そうに仕切られるのを仲間はどう思うのか。キャプテンとしての責任、プレーヤーとしての無力さ、その狭間で悩

み苦しむ日々が続いた。そしてキャプテンとしての責任を果たせない時、迷いが見えた時、西郷先生は容赦なく私を叱る。正直、理不尽だと思ったこともあった。

高校三年。最後のインターハイ予選。結局レギュラーの座は奪えず、背番号「1」。キャプテンマークを付けた自分は最後までベンチで応援をした。西部大会を勝ち進み、県大会二回戦で敗退。最後の夏は幕を閉じた。引退後、数日経ったある日、西郷先生から部員に集合命令が出た。どこの教室だったか、最後のミーティング。炎天下の夏の日。激しい蝉の鳴き声。

西郷先生が話を始めた。ねぎらいの言葉。四十年余りのバレーボールの指導の思い出。そして最後にこんな話をしたのである。「今年度をもって、俺は高校教師を定年退職する。この長い部活指導で多くの生徒の前に立つてきた。最後の三年間。母校である掛川西高校で指導できたことに感謝している。そして、守屋。俺はお前に出会えたことが幸せだった。」ただひたすらに涙が溢れた。西郷先生の胸の中で男泣きした。その時、私は決めた。「俺も教師になる。」

高校を卒業し、教育学部のある大学に進学。今、私は中学校で教師をしている。西郷先生との出会いで自分が一番学んだことは「子供を見る目」である。見える部分だけで子供を決めつけない。その子の能力を最大限に引き出す。そして適材適所を見極める。如何に子供をその気にさせるかが最大の指導力である。西郷先生との出会いとその教え

は、自分の体の中に常に流れている。西郷先生は退職後、私立高校や大学でバレーボールの指導を続けられた。今でも、掛川近郊の小中学生を対象にバレーボール教室を開いていらつしやる。私も中学男子バレー部の指導者として西郷先生と再会した。西郷先生が立ち上げられた試合に参加したり、チームを連れて挨拶に出向いたりすることもあった。同じ指導者として西郷先生と再会できたことを幸せに思う。

平成から、令和。時代と共に学校を取り巻く環境や、子供を取り巻く環境は大きく変わりつつある。SNSの発展やAIの登場。今まで考えもしなかった大きな変化を目の当たりにしている。西郷先生と出会えた高校生活。その教えと経験は、どのように時代や環境が変わろうとも色あせることはない。人が人と関わること。子供が夢や憧れを抱くこと。世の中には「変わらなくてはいけないこと」と、変わらなくてはならないこと。掛川西高での高校生活、西郷先生との出会いから学んだことは、「いつまでも変わってはいけないこと」として大切にしていきたい。

現役の高校生へ。人との出会いを大切にしてほしい。自分の何を変え、何を変えないで生きていくのか。そのヒントが高校生活の中に沢山あると思う。

そして、卒業生の皆様の御健勝と、掛川西高校の益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

最後に、西郷先生。いつまでもお元気で、御自愛下さい。私は、いつまでも先生の背中を追い続けます。

支部だより

東京冀北会

会長 橋本和久(高十九回卒)

●第三十一回総会・懇親会

第三十一回東京冀北会総会・懇親会は、昨年十一月十六日(土)に、毎日新聞社本社ビル内にあるレストラン LASKAで開催されました。当日は櫻井宏明校長、石川嘉延同窓会長をはじめ、会員、来賓者総勢約百名の参加を頂き、会は盛大に執り行われました。

第一部では、高二十九回卒の杉山文章さんに「オリンピックにおける水泳の歴史」をテーマにご講演頂きました。

第二部の総会では、鈴木正具会長の開会挨拶に続き、会計報告・監査報告が行われ、満場一致で承認されました。また橋本和久新会長および三名の新副会長が承認され、新たな役員体制(*)のスタートとなりました。

櫻井宏明校長からは、英語による授業展開の導入や文武両道の実践についての近況報告がありました。

第二部の懇親会は、高二十九回卒の高橋朋之さん、村田なおみさんの司会により、和やかな雰囲気が進められました。

石川嘉延同窓会長、掛川市役所の溝口様からの祝辞に続き、朝比奈豊毎日新聞グループホールディングス代表取締役会長(高十八回卒)、榛葉淳ソフトバンク副社長(高二十二回卒)から、スピーチを頂きました。

また今回は校歌(メロディー)が同じという縁を持つ、群馬県立沼田高校の丸山校長をはじめ五名の方々にもご出席頂き、友好を深めました。同じ校歌となった経緯について、三谷充弘さん(高二十六回卒)から解説があった後、全員で沼田高校校歌を斉唱しました。

最後は恒例の掛西応援団OBの演舞、リードにより全

員で校歌・応援歌を斉唱し、会場は現役大学生のパワーで大いに盛り上がったところで散会となりました。

(*) 会長 橋本和久(高十九回卒)

副会長 森田重敏(高二十一回卒)

端詰正子(高二十四回卒)

野川雅江(高二十六回卒)



連絡先

事務局 後藤利康(高二十七回卒)
〒110-0015
東京都台東区東上野3-1-8-7
上野駅前ビル6F
みどり生命保険(株) 財務部
電話 03-5902-3995
E-mail: goto_toshiyasu@midorilife.co.jp

関西支部 逆川会

会長 若宮忠弘(高十五回卒)

第三十九回逆川会総会

昭和五十七年に誕生した逆川会の三十八回目の総会は例年通り七月第一土曜日の令和元年七月六日に大阪京橋のホテル京阪にて開催されました。

当日は来賓として母校の新校長 櫻井宏明先生、同窓会の石川嘉延会長、同窓会事務局の笠原均先生、浜松冀北会 田中敏夫会長、ふじのくに領事館(静岡県大阪事務所) 杉山幹男領事をお迎えしました。

総会前の五月に高二十九回卒の森屋さんが中心になって取り組んでいた百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録・立命館大学の関西学生野球春季リーグ戦優勝(高六十八回卒 大拓海さん)と、逆川会会員の活躍によるすばらしいニュースが続いたこともあり、総会はたいへん盛り上がり、年に一度の賑やかで楽しく和やかな会になりました。

第一部の総会では決算報告に続いて規約の一部改正と役員改選(別掲)が行われました。

次に来賓の方から母校の生徒の活躍状況をご紹介いただきました。

恒例のメンバースピーチ、今年は「国内繊維産業の今昔」と題して伊藤規雄さん(高十八回卒)に講演をお願いしました。一九八〇年代からの日本の繊維産業の衰退過程について、ご自身のものがき苦しんだ経験談を交えての解説でたいへん重みのある有意義なお話でした。

第一部 懇親会は毎年のことですが殆ど無政府状態でした。今年の言葉で言えば正しく濃厚な「三密」でした。

締めは「校歌斉唱」です。リーダーは小川伊佐男さん（高十四回卒 元応援団副団長）。「岩根ごごしき天守台」を全員で声を張り上げて歌い上げお開きとなりました。

秋の歴史ハイキング in 飛鳥

今回は令和元年十一月九日に日本古代史の原点とも言うべき飛鳥を自転車で廻りました。

近鉄飛鳥駅に集合し、レンタサイクルで明日香村に点在する主な史跡を周回しました。移動距離は凡そ十五キロ。各々の史跡に到着すると森屋さん（高二十九回卒）の歴史解説を聴き千数百年の昔に思いを馳せました。参加者は七人と少なかったですが、充実した秋の一日となりました。

逆川会の現状

今年一月の役員会で年間計画を決定しましたが、新型コロナウイルス感染症パンデミックが邪魔をして総会をはじめ今年の行事はすべて中止することにいたしました。来年一月下旬の役員会にて活動を再開する予定です。

令和元年八月十七日に当会第二代会長の菅田宣之さん（高七回卒）が肺炎のため逝去されました。菅田さんは逆川会立ち上げ時からのメンバーで、会長退任後も顧問として逆川会のバックボーン的存在でした。ご冥福をお祈りいたします。

新役員

- | | | |
|-----|-------|----------|
| 会長 | 若宮忠弘 | (高十五回卒) |
| 副会長 | 伊藤規雄 | (高十八回卒) |
| | 村上和久 | (高二十回卒) |
| 事務局 | 北野享司 | (高二十一回卒) |
| 会 計 | 有村みほ子 | (高二十回卒) |
| 幹 事 | 逸見俊夫 | (高十五回卒) |
| | 牧野房雄 | (高十八回卒) |
| | 宇津木慎一 | (高十八回卒) |
| | 沢野賢司 | (高二十一回卒) |
| | 渡邊建三 | (高二十四回卒) |

会計監査
顧問

- | | |
|-------|----------|
| 渡辺 淳 | (高二十七回卒) |
| 渡辺弘子 | (高二十七回卒) |
| 小西智子 | (高二十九回卒) |
| 小山美智世 | (高二十九回卒) |
| 森屋直樹 | (高二十九回卒) |
| 上門 恒 | (高十三回卒) |
| 山浦恒稔 | (高十五回卒) |
| 菅田宣之 | (高七回卒) |
| 松本 昇 | (高七回卒) |
| 鈴木信康 | (高八回卒) |
| 土屋菊男 | (高八回卒) |
| 原田典彦 | (高十一回卒) |
| 堀 節子 | (高十三回卒) |
| 小川伊佐男 | (高十四回卒) |



連絡先

事務局 北野享司(高二十一回卒)
〒631-0062
奈良市帝塚山1-4-11
電話 0742-465279
E-mail: koji.kitano@yahoo.co.jp

東海冀北会

会長 酒井邦雄(高十八回卒)

令和元年十月十九日(土)名鉄グランドホテルにて、第二十一回総会が開催されました。

ご来賓として母校櫻井宏明校長、石川嘉延同窓会会長、笠原均同窓会事務局長、浜松冀北会の田中敏夫会長をお迎えし、同窓会会長並びに校長からご挨拶を賜り、議事では前年度の事業・決算報告及び新年度の事業計画・予算案並びに役員改選案が承認されました。

講演会では、松下憲二氏(高四十一回卒)から『三国志と邪馬台国』と題して貴重なお話を聴くことができました。

続いての懇親会では、来賓の皆様と共に近況報告や思い出話など大いに懇親を深めることができました。最後に校歌を全員で斉唱して散会となりました。

次期総会は令和二年十月三日(土)名鉄グランドホテルにて十七時から開催の予定です。

新役員

- | | | |
|------|------|----------|
| 会長 | 酒井邦雄 | (高十八回卒) |
| 副会長 | 佐藤倬二 | (高三回卒) |
| | 堀内厚生 | (高三回卒) |
| 顧問 | 鷺山雄一 | (高二十八回卒) |
| | 村松幸廣 | (高二十回卒) |
| | 相羽啓三 | (高二十二回卒) |
| 会計監査 | 赤堀 聡 | (高十五回卒) |
| | 鳥居 功 | (高二十一回卒) |
| 幹事 | 鈴木行男 | (高二十八回卒) |
| | 山下智章 | (高三十四回卒) |
| | 宇田 竜 | (高三十八回卒) |
| | 進士和典 | (高四十一回卒) |
| | 松下憲一 | (高四十一回卒) |
| | 山下大輔 | (高四十四回卒) |

事務局

堀内育夫 (高二十回卒)
山本 浩 (高二十二回卒)
伊藤美田紀(高二十三回卒)



連絡先

事務局 堀内育夫(高二十回卒)
〒464-0845
名古屋市千種区南明町3-19
電話 090111096286

東静岡冀北会

会長 小嶋和男(高十八回卒)

令和初の第二十五回東静岡冀北会総会を、令和二年三月に三島の茶房「樺」で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大による影響で中止と致しましたが、沼津の富士エースゴルフクラブで毎年開催してきました親睦ゴルフ会も、本年は東京冀北会を始めとする他の支部にも呼びかけて、大々的に実施する計画でした

が、やはり中止と致しました。残念なことです。支部総会や行事への参加者は、高齢の方が多い為、この新型コロナウイルスパンデミックへの恐怖が少なくならない限り、行事開催は困難かと思えます。会員の皆様と一日も早く元気で再会できますことを祈るばかりです。

連絡先

小嶋和男(高十八回卒)
〒411-0022
三島市川原ヶ谷塚の台570-8
電話 0559730601

静岡冀北会

会長 鈴木文隆(高十七回卒)

静岡冀北会は例年定期総会を中心に①美術鑑賞会②郷土歴史探訪会③ハイキングを継続コア事業として開催し、会員相互の親睦を深めています。

一、七月七日(日)に参加者二十五名で日本近代洋画コレクションを中心とした静岡近代美術館を訪れ、美術鑑賞会を実施しました。当日は大村館長(静岡OB)が「名門掛西のOB会による当館来訪を大変嬉しく思います」と挨拶され、館長自ら約二時間に渡り、熊谷守二の「猫」を始め全ての展示作品の解説を行い、また絵画収集についてもその経緯について(中には取得価格までも)、詳しいお話を頂きました。そして最後に参加者全員が美術館所蔵作品の図録の贈呈を受けるなど、その歓待に感激しながら館をあとにしました。

二、十一月二十八日(木)に参加者十五名でハイキングと郷土歴史探訪会を兼ねて「日本平夢テラス」を訪れました。静岡市観光ボランティアの専門ガイドの案内により、日本平の地質学的な成り立ちや、古事記

日本書紀から日本武尊の東征と日本平周辺の古墳時代の歴史を学ぶ予定でした。しかし、あいにくの雨模様で急遽、山頂付近のレストランでコーヒーを飲みながら、ガイドの説明を受けることになりました。

三、五月十六日(土)に開催を予定していましたが、七回定期総会は新型コロナウイルス感染拡大の中、今年度に限り総会は開催せずに役員会決議をもって総会決議に替えさせていただきました。本年度当番幹事である高二十七回卒の司会進行により、櫻井校長、石川同窓会長を始め多くのご来賓のご臨席の下、遠州浜名湖鉄道代表取締役の長谷川寛彦氏(高二十二回卒)による記念講演や懇親会を予定しておりましたが、来年度に期待することとしました。

四、そのほか「ゴルフ愛好会」「カラオケ同好会」や「麻雀同好会」も独自に活動しています。

五、静岡冀北会として「学校創立百二十年記念事業」に協賛し、十萬円の寄付を行いました。



連絡先

事務局 村松鐸治(高十六回卒)
〒420-0852
静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー16階
グローバルデザイン株式会社内
電話 05442735290
FAX 05442735292

浜松冀北会

会長 田中敏夫(高二十回卒)

第三十四回浜松冀北会総会開催報告

令和最初の第三十四回総会は、令和元年十一月九日グランドホテル浜松において、石川嘉延同窓会会長・櫻井宏明掛川西高校長をはじめ多くのご来賓のご臨席を賜り盛大に開催する事が出来ました。

総会は、来賓を含め九十九名(うち五名の女性)の参加者のもと、昨年度の事業報告・決算報告が承認され、新年度の事業計画・予算案が可決されました。

講演会では、天竜浜名湖鉄道(株)社長の長谷川寛彦氏(高二十二回卒)により『天竜浜名湖鉄道と地域振興』『日本の原風景に出会う旅』の未来に向けての演題で講演いただき、天竜浜名湖鉄道の前身「俣線で通学した頃を思い出し懐かしみました。

また、恒例となりました母校吹奏楽部と応援団指導部の演奏・演舞ですが、諸般の情勢で応援団指導部の演舞だけになり、残念でした。

第三十五回浜松冀北会総会について

今年の浜松冀北会総会は、新型コロナウイルスの感染予防の影響が心配ですが、今のところ規模を縮小して、令和二年十一月十四日(土)に、グランドホテル浜松で開催することを前提に実行委員会と協議しながら進行中です。情勢によっては、秋に最終判断を致しますが、新型コロナウイルス感染症が収束している事を祈っています。

会費は五千円(女性四千円)の予定です。浜松冀北会の会員でない方でも卒業生ならOKです。是非お越しください。お待ちしております。



連絡先

会長 田中敏夫(高二十回卒)
事務局長 山本 操(高二十一回卒)
〒43000856
浜松市中区中島1-30-17 田中敏夫方
電話 090-655946198
Mail: yamasa@winwins.biz

志太榛原冀北会

会長 大石好昭(高十四回卒)

一、第二十四回総会

令和になって初めてとなる今総会は、去る三月七日(土曜日)に金谷会館にて開催する予定で準備を進めておりましたが、中国武漢を発生源とする第一波の新型コロナウイルス感染症拡大を懸念して二週間前の二月二十二日に政府の対策発表を待たずに急

遽中止と決定しました。例年総会でしかお会い出来ない方も多数おられ、新型コロナウイルスの厄介な特性は懇親を妨げる困りものです。

さて、総会は中止したものの今年度事業を進めるに当たって支障を来してはならず、総会で承認を得る必要がある今年度事業計画と予算について、書面による議決権行使を会員各位にお願いをし、三月末までにその結果をまとめ会員各位に報告することが出来ました。

二、文化交流会

例年五月下旬から六月に静岡県歴史や新名所を巡る企画で計画実施しており、昨年度は、「日本平夢テラス」と「みほしるべ」の探訪を二十名の参加のもとに貸し切りバスで開催し、楽しい一日となりました。

三、会員親睦グランドゴルフ大会

昨年は十月二十六日(土曜日)に、島田球場隣の横井グラウンドゴルフ場にて開催しました。当日は絶好の好天に恵まれ参加者一同心地よい汗で親睦を深めました。今年も新型コロナウイルス対策のもとに開催できよう願っております。



連絡先

事務局 荒浪和彦(高十四回卒)
〒427-0038
島田市稲荷2-7-21
電話 0547-376357

遠州冀北会

会長 鈴木一夫(高十八回卒)

新型コロナウイルス感染症拡大が続く中、早々に本年度の総会を中止と致しました。

総会の後に行う講演会講師には森町「小國神社」打田文博宮司にお願いし承諾を得ておりました。

打田宮司さんは、神道政治連盟会長を筆頭に多くの役職を兼務されておりますが、次年度の講師依頼にも、快く承諾を頂きましたので次年度講演会をご期待ください。

次年度は役員の改選となりますので後一年次の役員で頑張ります。

- 会長 鈴木一夫 (高十八回卒)
- 副会長 稲村 弘 (高十八回卒)
- 副会長 清水陸美 (高二十回卒)
- 副会長 大場 栄 (高二十回卒)
- 副会長 鈴木康照 (高二十回卒)
- 副会長 寺田良博 (高二十一回卒)
- 副会長 片桐秀樹 (高二十六回卒)
- 事務局長 片桐秀樹 (高二十六回卒)

連絡先

事務局長 片桐秀樹(高二十六回卒)
〒437-0123
袋井市下山梨662
電話 0538-488609

御前崎冀北会

会長 山田康成(高十七回卒)

当御前崎支部の総会は隔年開催で行っており、今年開催の予定でしたが、五月二十七日役員会を開き、新型コロナウイルスの影響で一年先に延期することと致しました。

連絡先

事務局 樽林弘行(高二十六回卒)
〒437-1604
御前崎市佐倉37241
電話 0537-864267

大須賀支部

支部長 鳥山 剛(高十七回卒)

現在全く支部活動は行っていません。

昭和六十二年四月十九日開催の大須賀支部設立総会の写真です。

- 《役員》
- 支部長 鳥山 剛(高十七回卒)
- 副支部長 岡本 篤(高十九回卒)
- 事務局長 大石益幸(高二十九回卒)



連絡先

鳥山 剛(高十七回卒)
〒437-1301
掛川市横須賀289
電話 0537-483022

小笠支部

支部長 赤堀次秋(高十四回卒)

本年度は、どの支部でも事業活動にこれまでとは異なった対応がなされていることと思えます。当支部でも例外なく、独自の活動を継続し活動しております。

本来の目的である、会員相互の交流と情報交換の場となるように、引き続き魅力ある支部を目指して運営してまいりますので、皆様のご協力とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

《役員》

- 支部長 赤堀次秋 (高十四回卒)
- 副支部長 鈴木義弘 (高十六回卒)
- 副支部長 石田辰芳 (高十七回卒)
- 顧問 黒田淳之助 (高八回卒)
- 顧問 赤堀隆治 (高八回卒)
- 顧問 大川 務 (高十回卒)
- 顧問 沢田一宏 (高十回卒)
- 顧問 渡辺昇治 (高二十回卒)
- 監事 二俣広志 (高二十回卒)
- 監事 木野恒雄 (高二十五回卒)
- 事務局 大野慶明 (高二十一回卒)

連絡先

事務局 木野恒雄(高二十五回卒)
〒437-1522
菊川市嶺田1035
電話 0537-733462

大東支部

支部長 水野 薫(高十五回卒)

大東支部は、掛川西高等学校同窓会への参加、協力を基本に会員相互の親睦と情報の場として活動しており、各支部との交流も積極的に考えております。一日も早くコロナ問題が終息すること、災害の少ない社会に帰ることを願っております。今後とも、皆様方のご指導、ご協力をお願い致します。

《役員》

- 支部長 水野 薫(高十五回卒)
- 副支部長 雑賀祥宣(高十六回卒)
- 副支部長 森下克弘(高十六回卒)
- 副支部長 岡本熊平(高十七回卒)
- 副支部長 鳥井昌彦(高十七回卒)
- 事務局 中井 勝(高二十回卒)

連絡先

事務局 中井 勝(高二十回卒)
〒4371421
掛川市大坂2005
電話 0537722359



菊川支部

支部長 伊藤尚治(高十四回卒)

令和元年の総会を六月二十九日(土)に菊川文化会館アエルを会場に同窓会長石川嘉延様、母校校長櫻井宏明様はじめ十名のご来賓と会員六十四名の参加のもと開催しました。総会終了後の第二部記念講演では、講師に菊川市の広報でも紹介された母校後輩三年生の岡本優真さんをお招きし、全国高校生バイオサミットにおいて文部科学大臣賞受賞の研究「環境DNA」についてプロジェクトによる研究成果発表の機会を得ることができました。限られた質疑の時間では、多くの会員から次々と手が挙げられるなど、後輩の活躍を称えることはもちろん、会員自身が大いに刺激を受ける場になったようでした。記念講演後には恒例の懇親会に移り、ご来賓・会員ともに和気あいあいの大変賑やかな雰囲気の中、無事総会も終了となりました。



掛川支部

支部長 兼井 勝(高十六回卒)

令和二年度掛川支部総会を四月十九日(日)掛川グランドホテルにて開催する予定でしたが、新型コロナウイルスで中止となりました。

《本年度役員》

- 支部長 兼井 勝(高十六回卒)
- 副支部長 岡田和男(高十七回卒)
- 副支部長 青野 馨(高十八回卒)
- 副支部長 福田敏明(高十九回卒)

連絡先

事務局 大井寛行(高十八回卒)
〒4360075
掛川市仁藤町7-2
電話 05377224060

連絡先

事務局 伊藤芳男(高二十回卒)
〒4390023
菊川市三沢670
電話 0537361100



進路状況<令和2年度入試合格状況ほか>

4月1日現在

(1) 国立大学

大学	学部	学科	合格者数	
			現役	過年度
北見工業	工	地球環境工	1	
弘前	教育	学校教育・中学技術	1	
秋田	理工	システムa	1	
岩手	理工	システム創成・電気電子通信	1	
東北	経済			1
	理	物理系	1	
山形	工	化・応用化学	1	
		情・情報能	1	
		機械システム工	1	
		フレックス・システム創成	1	
福島	人文社会	経済経営	1	
茨城	工	物質科学工	1	
	教育	英語教育	1	
宇都宮	工	基盤工	1	
	農	農業経済	1	
筑波	人文・文化	人文	1	
	生命環境	地球	1	
埼玉	工	応用化学	1	
電気通信	情報理工		1	2
東京	理科一類		1	
東京学芸	教育	初等教育・音楽選修	1	
		初等教育・数学選修	1	
東京工業	理		1	
東京農工	工	生体医用システム工	1	
		生命工	2	
横浜国立	理工	化学・化学応用	1	
	理工	機械工学		1
新潟	工	化学材料	1	
	医	保・検査技術	1	
富山	工	応用化学a	1	
金沢	医薬保健	保健学類・検査技術科学	1	
	人間社会	法		1
	理工	生命理工		1
福井	工	機械システム	1	
山梨	医	看護	2	
	工	電気電子工	1	
信州	工	水環境・土木	1	
	医	保健・理学療法	1	
	理	理・物質循環	1	
浜松医科	医	看護	1	
静岡	人文社会	法	1	
		教育実践学	1	
	教育	社会科教育	1	
		幼児教育	1	
		美術教育	1	
		音楽教育	1	
		英語教育	1	
	工	機械工	2	
		数理システム	2	
		生物資源科学	1	
情報	情報科学	1		
愛知教育	教育	教育・生活科	1	
名古屋	文	人文	1	1
	法	法律・政治	1	
	工	マテリアル工	1	
	農	応用生命科学	2	
名古屋工業	工	生命応用化学	1	
		社会工・環境	1	
三重	生物資源	共生環境	1	
京都	経済			1
	医	人間健康科学		1
京都教育	教育	学校教育・社会	1	
京都工業繊維	工	工業化学	1	
大阪	基礎工	情報科学	1	
		システム科学	1	
	文			1
大阪教育	教育	特別支援教育	1	
神戸	医	保健・看護学	1	

大学	学部	学科	合格者数	
			現役	過年度
奈良女子	理	数物科学	1	1
広島	文	人文	1	
	教育	初等教育	1	
	理	数学	1	
岡山	理工	環境物質工	1	
島根	総合理工	物質科学	1	
高知	理工	生物科学	1	
鳴門教育	学校教育	小中・英語	1	
琉球	工	建築学	1	
国立大計			76	11

(2) 公立大学

大学	学部	学科	合格者数	
			現役	過年度
秋田県立	生物資源	応用生物科学	1	
長岡造形	造形	視覚デザB	1	
茨城県立医療	保健医療	理学療法	1	
高崎経済	経済	経済	1	
		地域政策		1
東京都立	人文社会	人間社会	1	
	都市環境	都市基盤環境	1	
		環境応用化学	1	
	理	数理科学	1	
	シニアデザイン	情報科学		1
福井県立	経済	経営	1	
都留文科	文	国文	1	
		比較文化	1	
山梨県立	看護	看護	2	
長野	企業情報	企業情報	1	
		国際関係	国際言語文化	3
静岡県立	食品栄養	栄養生命科学	2	
		看護	看護	2
	薬	薬	2	
		国際文化	国際文化	1
静岡文化芸術	文化政策	芸術文化	2	
	文化政策	文化政策	1	
	デザイン	デザ(実技)	1	
愛知県立	日本文化	歴史文化	1	
	外国語	ヨーロッパ・フランス	1	
	経済		1	
名古屋市立	人文社会	現代社会	1	1
	芸術工	情報環境デザ	1	
三重県立看護	看護	看護(一般)	1	
京都府立	生命環境	食保健	1	
大阪府立	生命環境	応用生命科学	1	
	工	物質化学		1
島根県立	総合政策	総合政策5	1	
福山市立	都市経営	都市経営	1	
公立大合計			38	4

(4) 令和2年3月卒業生進路決定状況

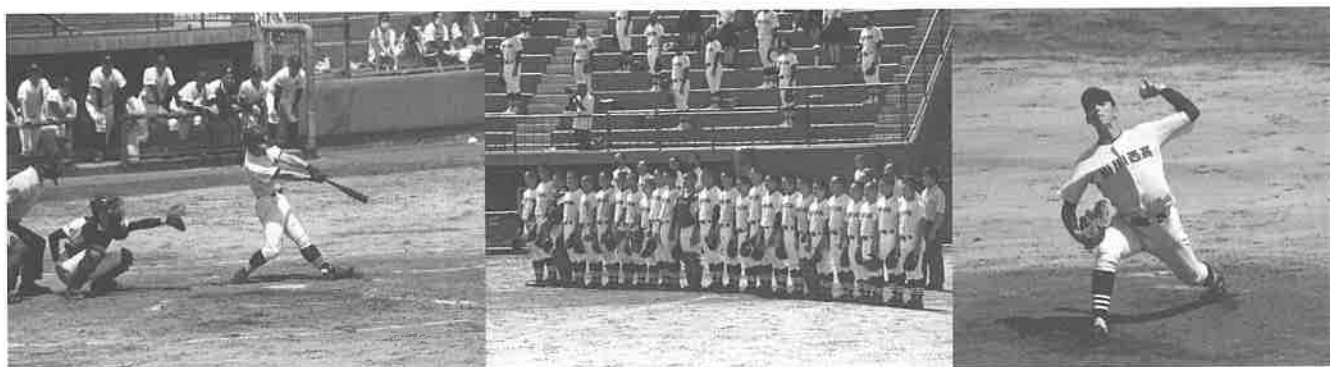
国立大学	71
公立大学	36
私立大学	178
公立短期大学	2
私立短期大学	0
専門学校	6
就職	2
進学準備	23
合計	318

(3) 私立大学(校内集計 合格延数 学部名省略)

大学	合格者数		大学	合格者数	
	現役	過年度		現役	過年度
つくば国際	1		鎌倉女子	3	
産業能率	2		相模女子	4	
城西	1		山梨英和	1	
東京国際	1		開志専門職	1	
獨協	4		新潟医療福祉	2	
文教	4		新潟薬科	1	
神田外語	2		金沢工業	5	
デジタルハリウッド	2		金城	1	
東京情報	1		岐阜女子	2	
日本工業	1		岐阜聖徳学園	1	
千葉工業	3		岐阜医療科学	5	
千葉商科	1		静岡福祉	1	
跡見学園女子	1		静岡理工科	14	
麗澤	1		静岡産業	2	
青山学院		1	静岡英和学院	1	
亜細亜	2		聖隷クリストフ	23	
大妻女子	1		常葉	126	
桜美林	4		浜松学院	2	
北里	3		愛知	11	
共立女子	1		愛知医科	1	
杏林	1		愛知学院	21	
慶應義塾	1		愛知学泉	2	
工学院	4		愛知工科	1	
國學院	2		愛知工業	9	1
国士館		2	愛知産業	2	
駒澤	6	1	愛知救徳	11	
駒沢女子	1		愛知東邦	1	
芝浦工業	11		金城学院	10	
順天堂	2		植山女学園	5	
実践女子	5		大同	4	
成蹊	4		中京	14	2
成城	1		人間環境	3	
専修	19		至学館	4	
創価	1		脩文	1	
大東文化	5		中部	16	
拓殖	4		東海学園	5	
中央	4		豊橋創造	3	
津田塾	1		日本赤十字豊田看護	1	
帝京	4		名古屋外国語	26	
帝京科学	1		名古屋学院	7	
東海	13		名古屋学芸	2	
東京医科		1	名古屋経済	3	
東京医療保健	1		名古屋商科	1	
東京家政学院	1		名古屋女子	3	
東京経済	2		名古屋文理	2	
東京学芸	1		藤田医科	3	1
東京工科	10		南山	9	
東京女子	1		日本福祉	3	
東京電機	3		名城	28	1
東京都市	4		皇学館	2	
東京農業	9		鈴鹿医療科学	1	
東京理科	12		京都外国語	1	
東邦	8		京都産業	8	
東洋	16	3	京都女子	5	
日本	21	4	京都先端科学	1	
日本女子	1		京都極	2	
日本女子体育	1		同志社	1	4
日本体育	1		同志社女子	4	
文化学園	1		同朋	1	
法政	9	1	花園	1	
武蔵	1		佛教	3	
武蔵野	4	1	立命館	23	6
明治	10	2	龍谷	13	
目白	1		関西	6	1
明治学院	6		関西外国語	7	
明星	1		近畿	9	
立教	6		関西学院	2	
立正	3		畿央	1	
早稲田	2	3	神戸女子	1	
麻布	3		武庫川女子	1	
神奈川工科	15		福山	2	
神奈川	26		広島国際	1	
湘南工科	1		産業医科	1	1
関東学院	1		立命館アジア太平洋	1	

2020 部活動

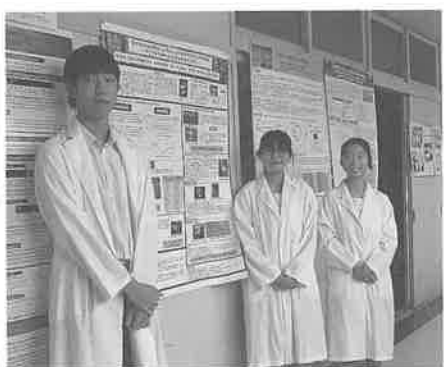
本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校生活はもちろんのこと、各部活動においても練習に制限があったり、大会が中止になりました。この状況下の中、頑張ってきた生徒たちの足跡を掲載したいと思います。



野球部



男子バレー部



自然科学部



女子バレー部



水泳部



茶華道部



ダンス部



サッカー部



文芸部



パソコン部



将棋部



囲碁部



アウトドア部



演劇部



ギター部



応援団指導部



吹奏楽部



音楽部



食物研究部



美術部



英語部



剣道部



卓球部



男子テニス部



女子バスケット部



男子バスケット部



女子テニス部



陸上部



陸上部

創立 120 周年記念事業実行委員会より

○募金活動について

募金活動につきまして、多くの皆様の御支援・御協力をいただき、おかげ様で目標額20,000千円に対し、20,421千円と目標を達成することができました。

御寄付いただきました皆様方に対し、有難く厚く御礼申し上げます。

〈2020年3月31日時点〉

募金額	20,421千円	目標の20,000千円を達成	
寄付していただいた	個人	15,002千円	1,969名 (ダイレクトメール発送20,735通に対し9.5%)
//	企業団体	5,098千円	53 先
PTA(在校生保護者)		321千円	92名

○創立 120 周年記念事業概要

〈事業内容:再掲〉

3つの事業、①「記念式典」、②「記念事業」、③「120周年記念誌」を実施します。

各事業を担当する①「記念式典行事部会」、②「記念事業部会」、③「記念誌編集部会」の3部会があり、3事業の実現を金銭的に支える、④「会計担当部会」の計4部会が準備を進めています。

〈3事業の進捗状況〉

①「記念式典」 下記のように骨格が決まってきました

実施日時・場所:2020年10月30日(金) 本校第1体育館 13:00~15:45

第1部 記念式典

参加者:全校生徒、職員と同窓会・学校後援会・PTAの代表者

来 賓:歴代校長、歴代生徒会長、同窓生(県会議員、市町長)

第2部 講演会

講演者:加藤百合子 氏 [(株)エムスクエアラボ代表取締役 静岡県教育委員]

内 容:新しい時代を生きていく在校生へのメッセージ(今大切なこと)

②「記念事業」 優先順位と進捗状況

1.図書館へのエアコン設置(先行事業として設置済)

2.各教室への日除けカーテン設置(先行事業として設置済)

3.特A教室へのエアコン設置 4.中庭の整備 5.音楽室へのエアコン設置

記念事業の趣旨(募金趣意書より再掲)

2017年に教室棟(北校舎)の改修工事が完了し、素晴らしい教室が完成いたしました。2018年度には各教室にICT機器の導入も完了しました。さらに魅力的な掛川西高校として、また、この地区の拠点校として、伝統を維持し、社会に貢献できる人材を多く輩出し続けることを期して当実行委員会では、教育環境整備支援事業に注力することといたしました。

③「120周年記念誌」 101年目~120年目の期間についての記録となります

構 成:巻頭言・各年度のトピック・部活動の歩み・学校行事変遷・教育課程の記録・進路実績・20年の年表

配 布:生徒職員にはDVD版を、来賓には冊子版を、式典当日配布する。

※希望者には実費にて販売いたします。なお、6,000円以上を寄付(募金)していただいた方には、礼状とともにDVD版記念誌をお送りします。

現 状:同窓生と図書課職員で原稿書き、原稿依頼をすすめています。

在校生は夏休みに各部の20年の歴史をまとめます。

静岡県立掛川西高等学校

創立120周年記念事業実行委員会

委員長 石川 嘉延(同窓会長)

委 員 高木 正樹(学校後援会長)

委 員 名倉 達也(PTA会長)

委 員 櫻井 宏明(学校長)

令和2年度 掛川中学・掛川西高等学校同窓会 議決事項

- 第1号議案 令和元年度会務報告
- 第2号議案 令和元年度決算報告
- 第3号議案 令和2年度会務計画
- 第4号議案 令和2年度予算案

新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年度は、6月21日(日)の評議委員会は自粛(中止)となりました。従いまして、第1号議案から第4号議案につきましては、5月9日(土)の第1回本部役員会での原案を評議委員の方々に書面決裁をしていただき評議委員会に代えさせていただきます。8月の同窓会総会も自粛(中止)のため、本冀北36号および掛川西高校HP、同窓会HPにて議決事項を提示させていただきます。

第1号議案

令和元年度 会務報告

月日(曜日)	項目	会務実施内容	場 所
2月15日(金)	準備委員	同窓会総会準備委員会打ち合わせ会	百周年記念館2F
3月15日(金)	準備委員	第1回総会準備委員会(高29・39・49回卒)	百周年記念館2F
4月19日(金)	準備委員	第2回総会準備委員会	百周年記念館2F
		第1回会報冀北編集委員会	百周年記念館3F
4月21日(日)	支部総会	掛川支部総会	掛川グランドホテル
4月24日(水)	監 事	会計監査	掛川西高校小会議室
5月16日(木)	監 事	会計監査	掛川西高校小会議室
5月16日(木)	本部役員	第1回本部役員会(会務・予算報告、会務・予算審議)	掛川西高校小会議室
5月17日(金)	準備委員	第3回総会準備委員会	百周年記念館2F
		第2回会報冀北編集委員会	百周年記念館3F
5月25日(土)	支部総会	静岡冀北会総会	グランドホテル中島屋
6月16日(日)	準備委員	第4回総会準備委員会(封筒詰め作業等)	百周年記念館2F
	評議員会	評議員会(本部役員・評議員・支部長)	掛川西高校大会議室
6月22日(土)	支部総会	遠州冀北会総会	さのや会館
6月29日(土)	支部総会	菊川支部総会	菊川文化会館「アエル」
7月 6日(土)	支部総会	関西支部(逆川会)総会	京阪・京橋ホテル
7月19日(金)	準備委員	第5回総会準備委員会	百周年記念館2F
8月 2日(金)	準備委員	第6回総会準備委員会(売上直前確認等)	百周年記念館2F
8月16日(金)	準備委員	第7回総会準備委員会(最終打ち合わせ)	掛川グランドホテル
8月17日(土)	総 会	同窓会総会 ※同窓会報「冀北」配布	掛川グランドホテル
9月 6日(金)	準備委員	同窓会総会反省会	掛川グランドホテル
10月17日(木)	本部役員	第2回本部役員会(総会報告等)	掛川西高校小会議室
10月19日(土)	支部総会	東海冀北会総会	名鉄グランドホテル
10月29日(火)	支部総会	県庁掛西会総会	中島屋グランドホテル
10月30日(水)	講 演 会	冀北講演会	掛川西高校体育館
11月 9日(土)	支部総会	浜松冀北会総会	グランドホテル浜松
11月16日(土)	支部総会	東京冀北会総会	レストランALASKA
1月16日(木)	本部役員	第3回本部役員会(会務中間報告、卒業式関係)	掛川西高校小会議室
2月21日(金)	準備委員	令和2年度総会準備委員会打ち合わせ会	百周年記念館2F
2月28日(金)	本部役員	同窓会入会式	掛川西高校体育館
3月 2日(月)	本部役員	卒業式	掛川西高校体育館
3月 7日(土)	支部総会	志太榛原冀北会総会 (中止)	金谷会館
3月18日(水)	準備委員	2020年度第1回総会準備委員会(高30・40・50回卒)	百周年記念館2F

(1) 令和元年度 静岡県立掛川西高等学校同窓会 収支決算書

収入決算額 3,339,055 円
 支出決算額 2,729,710 円
 差引残額 609,345 円(※令和2年度予算へ繰り越し)
 (平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

1 収入の部

(単位 円)

科目	当初予算額	決算額	比較	摘要
会費	3,170,000	3,170,000	0	H30年度卒業生317人×10,000円
繰越金	164,034	164,034	0	
積立金繰入	0	0	0	
雑収入	5,966	5,021	△945	預金利息、名簿売上金
収入合計	3,340,000	3,339,055	△945	

2 支出の部

(単位 円)

科目	当初予算額	令和元年度決算額	差引残額	摘要	
事業費	1,550,000	1,288,970	261,030		
内訳	教育振興費	700,000	483,388	216,612	部活動奨励費、冀北講演会謝礼、特別功労賞副賞
	記念館管理費	850,000	805,582	44,418	記念館管理人代
会務費	1,690,000	1,390,740	299,260		
内訳	会議費	50,000	6,582	43,418	各委員会会合費
	同窓会誌	400,000	380,723	19,277	同窓会誌「冀北」印刷代
	通信・印刷	290,000	271,549	18,451	郵送代、総会プログラム
	旅費・祝儀	590,000	499,260	90,740	出張旅費、祝儀
	入会祝品	240,000	221,517	18,483	新入会員祝品
	慶弔費	100,000	0	100,000	転退任職員饗別
	役務費	20,000	11,109	8,891	祝儀袋代、事務用品、サラト退会手数料
積立金	50,000	50,000	0		
予備費	50,000	0	50,000		
支出合計	3,340,000	2,729,710	610,290		

上記のとおり、令和元年度静岡県立掛川西高等学校同窓会決算を報告します。

令和2年5月9日

静岡県立掛川西高等学校同窓会会長 石川 嘉延

(2) 令和元年度 静岡県立掛川西高等学校同窓会 積立金決算

平成30年度末の積立金合計	5,303,490円	
同預金利息	197円	
積立金	50,000円	
貸付金返済	3,500,000円	*R1 350万円返済、R2 350万円返済予定
令和元年度末積立金合計	8,853,687円	

上記の通り報告します。

令和2年5月9日

静岡県立掛川西高等学校同窓会会長 石川 嘉延

上記を監査の結果、適正に処理されていたことを認めます。

令和2年4月24日

静岡県立掛川西高等学校同窓会

会計監事 兼井 勝
 同 土井 弘子

(3) 令和元年度 静岡県立掛川西高等学校同窓会総会 収支決算書

収入決算額 2,925,829円
 支出決算額 2,663,857円
 差引残額 261,972円

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

1 収入の部

(単位 円)

科目	決算額	摘要
パーティー券	2,024,810	339枚×6,000円-9,190円(手数料)
パーティー券	642,000	当日現金107人×6,000円
反省会参加費	129,000	43人×3,000円
祝儀	130,000	10,000円×9支部、会長、校長、顧問2
雑収入	19	利息19円
収入合計	2,925,829	

2 支出の部

(単位 円)

科目	決算額	摘要
講師謝礼	50,000	渡辺安氏(高39)への謝礼
エンタテイメント謝礼	100,000	長谷川晴彦氏(高39)
ホテル利用料	2,501,648	8月17日(総会当日)、9月6日(反省会)
振込手数料(静銀)	540	ホテル利用料振込手数料
事務費	11,669	リボン購入7,295円、陣羽織クリーニング3,480円、クリップ894円
支出合計	2,663,857	

3 差引残額

(単位 円)

科目	決算額	摘要
差引残額	261,972	
最終残額	261,972	積立金として同窓会総会会計へ繰り入れ

(4) 令和元年度 静岡県立掛川西高等学校同窓会総会 繰越金決算

平成30年度繰越金	4,482,421円
令和元年度繰越金	261,972円
次期繰越金	4,744,393円

上記の通り報告します。

令和2年5月9日

静岡県立掛川西高等学校同窓会会長 石川 嘉延

上記を監査の結果、適正に処理されていたことを認めます。

令和2年4月24日

静岡県立掛川西高等学校同窓会

会計監事 兼 井 勝 子
 同 土 井 弘 子

月日(曜日)	項目	会務実施内容	場 所
2月21日(金)	準備委員	同窓会総会準備委員会打ち合わせ会	百周年記念館2F
3月19日(木)	準備委員	第1回総会準備委員会(高30・40・50回卒)	百周年記念館2F
4月17日(金)	準備委員	第2回総会準備委員会	百周年記念館2F
		第1回会報冀北編集委員会	百周年記念館3F
4月19日(日)	支部総会	掛川支部総会(中止)	掛川グランドホテル
4月24日(金)	監 事	会計監査	掛川西高校小会議室
5月 9日(土)	本部役員	第1回本部役員会(会務・予算報告、会務・予算審議)	掛川西高校大会議室
5月15日(金)	準備委員	第3回総会準備委員会(中止)	百周年記念館2F
		第2回会報冀北編集委員会(中止)	百周年記念館3F
5月16日(土)	支部総会	静岡冀北会総会(中止)	グランドホテル中島屋
月 日()	支部総会	御前崎冀北会総会(中止)	
5月30日(土)	支部総会	菊川支部総会(中止)	菊川文化会館「アエル」
6月20日(土)	支部総会	遠州冀北会総会(中止)	ラヴェリテさのや
6月21日(日)	準備委員	第4回総会準備委員会(封筒詰め作業等)(中止)	百周年記念館2F
	評議員会	評議員会(本部役員・評議員・支部長)(書面決裁)	掛川西高校大会議室
7月 4日(土)	支部総会	関西支部(逆川会)総会(中止)	京阪・京橋ホテル
7月17日(金)	準備委員	第5回総会準備委員会(中止)	百周年記念館2F
8月 7日(金)	準備委員	第6回総会準備委員会(売上直前確認等)(中止)	百周年記念館2F
8月14日(金)	準備委員	第7回総会準備委員会(最終打ち合わせ)(中止)	掛川グランドホテル
8月15日(土)	総 会	同窓会総会(中止)	掛川グランドホテル
9月 4日(金)	準備委員	同窓会総会反省会(中止)	掛川グランドホテル
10月 3日(土)	支部総会	東海冀北会総会	名鉄グランドホテル
10月15日(木)	本部役員	第2回本部役員会(総会報告等)	掛川西高校小会議室
10月30日(金)	式 典	掛川西高校創立120周年記念式典 (令和2年度は冀北講演会はありません)	掛川西高校体育館
11月11日(水)	支部総会	県庁掛西会総会	クーポール会館
11月14日(土)	支部総会	浜松冀北会総会	グランドホテル浜松
11月21日(土)	支部総会	東京冀北会総会	レストランALASKA
1月21日(木)	本部役員	第3回本部役員会(会務中間報告、卒業式関係)	掛川西高校小会議室
2月19日(金)	準備委員	令和3年度総会準備委員会打ち合わせ会	百周年記念館2F
2月26日(金)	本部役員	同窓会入会式	掛川西高校体育館
3月 1日(月)	本部役員	卒業式	掛川西高校体育館
3月 6日(土)	支部総会	志太榛原冀北会総会	金谷会館
3月19日(金)	準備委員	2021年度第1回総会準備委員会(高31・41・51回卒)	百周年記念館2F
3月28日(日)	支部総会	東静岡冀北会総会	茶房 櫻

令和2年度 静岡県立掛川西高等学校 同窓会 予算案

収入予算額	¥ 3,794,400
支出予算額	¥ 3,794,400
差引残額	¥0

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

1 収入の部

(単位 円)

科 目	令和2年度予算額	令和元年度予算額	比 較	摘 要
会 費	3,180,000	3,170,000	10,000	令和元年度卒業生318人×10,000円
繰 越 金	609,345	164,034	445,311	
積立金より繰入	0	0	0	
雑 収 入	5,055	5,966	△ 911	預金利息、名簿売上金
合 計	3,794,400	3,340,000	454,400	

2 支出の部

(単位 円)

科 目	令和2年度予算額	令和元年度予算額	比 較	摘 要
事 業 費	1,650,000	1,550,000	100,000	
内 訳				
教育振興費	700,000	700,000	0	部活動奨励費、冀北講演会費、特別功労賞
記念館管理費	900,000	850,000	50,000	記念館人件費(時給848円)・修繕費等
会 務 費	1,944,400	1,690,000	254,400	
内 訳				
会 議 費	50,000	50,000	0	会議費等
同 窓 会 誌	500,000	400,000	100,000	会誌「冀北」印刷費
通 信 ・ 印 刷	350,000	290,000	60,000	切手、葉書、インターネット契約料等
旅 費 ・ 祝 儀	736,000	590,000	146,000	出張旅費、祝儀等
入 会 祝 品	300,000	240,000	60,000	新入会員祝品
慶 弔 費	100,000	100,000	0	慶弔費
役 務 費	20,000	20,000	0	文具、事務雑費、謝礼等
積 立 金	100,000	50,000	50,000	
予 備 費	100,000	50,000	50,000	
合 計	3,794,400	3,340,000	454,400	

各項目間の流用を認める。
上記のとおり提案します。

令和2年5月9日

静岡県立掛川西高等学校同窓会長

石川 嘉 延

令和2年度 静岡県立掛川西高等学校 同窓会 積立金 予算案

1 収入の部

(単位 円)

科 目	令和2年度予算額	令和元年度予算額	比 較	摘 要
繰 越 金	8,853,687	5,303,490	3,550,197	350万円は学校後援会よりの返済
返 済 金	3,500,000	3,500,000	0	学校後援会よりの返済金(エアコン設置)
積 立 金	50,000	50,000	0	
雑 収 入	613	510	103	預金利息
合 計	12,404,300	8,854,000	3,550,300	

2 支出の部

(単位 円)

科 目	令和2年度予算額	令和元年度予算額	比 較	摘 要
貸 付 金	0	0	0	
予 備 費	12,404,300	8,853,687	3,550,613	
合 計	12,404,300	8,853,687	3,550,613	

事務局より

掛川西高校創立120周年によせて

令和二年度は、本校創立120周年に当たります。十月三十日に記念式典も予定され、現在記念誌の編集、記念事業としての中庭の整備、音楽室および特A教室へのエアコン設置作業も着々と進行しています。このように式典および記念事業が行えるのも同窓生の皆様の熱い思いと御支援があつてこそのことと感謝しております。この場を借りて改めて募金目標額の二千万円を達成できたことへのお礼を申し上げます。

さて、このように本校にとつても節目の本年度なのですが、言うまでもなく「コロナ」一色の先の見通せない毎日でもあります。残念ながら、八月の同窓会総会も自粛となりました。しかし、本同窓会報「翼北36号」もコロナ自粛の時勢の中、負けずに生きる本校同窓生の姿を後世まで残す一冊として仕上げられました。改めまして編集に関わつてくださった同窓生の皆様に感謝申し上げます。

在校生は葛城祭が中止となり、部活動では発表の場、大会の場を失いました。また毎日の学校生活でも数々の制約を受け、特に三年生は入試への不安とも戦っています。また同窓生の皆様もそれぞれの生活の場で忍耐の日々を過ごしておられると思います。そんな毎日が続く今であるから、この「翼北36号」を刊行できることの意義は大きいと思います。先の見通せない毎日が続きますが、現役生同窓生の皆様の希望の明日を信じて事務局からの思いを締めさせていただきますと思います。

現校内幹事

土井 幸弘 (高二十六回卒)	小金澤貴弘 (高四十三回卒)
田中喜代志 (高二十八回卒)	入石 卓哉 (高五十一回卒)
高橋 靖彦 (高二十八回卒)	楠屋 真行 (高五十一回卒)
伊藤 裕啓 (高三十三回卒)	木村 裕一 (高五十八回卒)
片岡 徹 (高三十四回卒)	鈴木 秀倫 (高五十八回卒)
大橋 雅則 (高四十回卒)	

編集後記

冀北編集委員会も新型コロナウイルスの感染拡大に大きく影響を受け、四月十七日の第一回以降開かれることはありませんでした。一度のみの会議で発行まで順調に進みましたが、事務局(校内幹事)の手配の良さと、「冀北」だけは何としても発行するという編集委員の責任感、そして何より原稿依頼を引き受けて頂いた執筆者の皆さんのお陰です。総会が中止となり、年代を超えた同窓生が集う場が無くなりました。当番学年の我々にとつては無論のこと、総会を楽しみにされていたすべての同窓生にとつて誠に残念な2020年となりました。この「翼北36号」が、同窓生相互が旧交を温め、また新たな繋がりを作るきっかけとなれば幸いです。思い出に浸りつつじっくりお読み下さい。

編集委員

龍尾美佐子 (高二十九回卒)	雲母 政敏 (高四十回卒)
武田 安代 (高二十九回卒)	小泉佳世子 (高四十回卒)
田中 克美 (高二十九回卒)	土屋 妙子 (高四十回卒)
笠原 均 (高三十回卒)	仲田 和恵 (高四十九回卒)
金原 義明 (高三十回卒)	鈴木麻美子 (高四十九回卒)
太田 友江 (高三十回卒)	増田紀久子 (高四十九回卒)
伊谷佳奈子 (高二十九回卒)	内田 達也 (高五十回卒)
沖 美穂 (高二十九回卒)	岡本 和美 (高五十回卒)
鈴木 利幸 (高二十九回卒)	石川 敏裕 (高五十回卒)

事務局

大石 卓哉 (高五十一回卒)
木村 裕一 (高五十八回卒)

発行者

石川 嘉延

編集

静岡県立掛川西高等学校
「冀北」編集委員

印刷

(株)アピサレ

